広島文教女子大学
研究紀要 第二十七巻（一九九二、十二、五）

『祁忠敏公日記』に見える観劇記事

根ケ山 徹

『祁忠敏公日記』に見える観劇記事

根ケ山　徹

On Documents concerning Drama found in the "Ch'i chung-min kung jih-chi"

Tohru Negayama

明清の士大夫が残した日記は、彼らの日常生活を知るうえで貴重な手掛かりとなる資料である。日記の記事には国政にかかわる公的な事柄はもとより、全く私的な些事に至るまでもが書きとどめられている。ところでこれらの日記には、彼らが観劇などのいわゆる芸能にかかわった記録を詳細にとどめたものが存する。例えば明代では馮夢禎の『快雪堂日記』が、清代では楊恩寿の『坦園日記』が観劇の記録を多く掲載するものとして知られている。

本稿では明朝に殉節し抗清の気概を世に示した祁彪佳をとりあげる。従来、彪佳については専ら『遠山堂曲品・劇品』のみが注目されてきた。これは該書が、伝奇だけに限定しても、先行する呂天成の『曲品』を上回る四六七種の戯曲に論評を加えており、しかもその中には現在では目にすることのできない作品が数多く含まれていることによる。更には読書人たちに全く無視されてきたと言ってよい江南の地方土腔を、「雑調」という新たな項目をたてて輯録していることも、この書が注目される理由のひとつである。

このように戯曲評論の分野で注目される祁彪佳には、崇禎四年（一六三一）八月一日から弘光元年（一六四五）閏六月四日に至るまでの日々の記録を詳細に書きとどめた『祁忠敏公日記』が存在する。日記には時局に対する奏議起草はもとより、古今の救荒書の収集、劉念台や顔茂猷といった知名人士との交遊、別墅構築に関する記事など、当時の知識人の日常の生活を知るうえで極めて興味深い記録が数多く記されている。とりわけ、観劇の記録は演目が明らかでないものを含めて約二〇〇回にも及んでいる。それらの中には、読書人たちの小集の場で演じられたものについてだけではなく、賽神など宗教的な儀式のための戯曲上演、あるいは彼らが直接関与していない村落における戯曲上演についても記録されている。また具体的な演目が明示されるものに限っても、先に掲げた『快雪堂日記』の六倍以上の記録がとどめられており、貴重すべき資料である。

さて祁家は明代以降、代々山陰の梅墅に居を構え、天順年間から官吏を輩出したいわゆる郷紳の家柄である。なかでも万暦三十二年（一六〇四）の進士で、河南按察僉事副使、江西右参政を歴任した祁承㸁、字爾光、号夷度は、『澹生堂』の蔵書によって、会稽鈕氏の『世学楼』、寧波范氏の『天一閣』と並称される浙江の大蔵書家の一人に数えられる人物である。

彪佳は承㸁の第四子として万暦三十年（一六〇二）に山陰の梅墅に生まれた。字は弘吉、また幼文、号は世陪。天啓二年（一六二二）、二十一歳にして進士に合格し、翌年、福建の興化府推官に任ぜられている。崇禎元年（一六二八）十一月一日、承㸁が病没し、一旦、山陰に帰郷する。四年（一六三一）二月、服喪を終え、七月二十八日に再び入京し、福建監察御史の任を授かる。六年（一六三三）三月、巡按蘇松に転じ、六月四日から任地常熟に駐した。翌年五月、紹興に帰り、以後七年間を

故郷で過ごす。十三年（一六四〇）三月四日、母親を喪う。十五年（一六四二）九月、河南道事として復官したけれども、翌年十月には三たび紹興に帰っている。十七年（一六四四）三月十九日、李自成の軍が北京を攻略し、崇禎帝は煤山で縊死した。この年の五月、彪佳は南京の福王のもとで蘇松巡撫使に任ぜられた。しかし馬士英や阮大鋮らの専横に絶望し、同年十一月十三日に罷官している。翌弘光元年（一六四五）五月、南京が陥落し、清軍が紹興に迫る。六月、彪佳は清の貝勒の降伏勧告を退け、閏六月六日、別墅の池に端坐したまま命を絶った。

前述のとおり彪佳の父親承燦は蒐書家であった。彪佳もその後を継ぎ、『澹生堂』の維持管理に心血を注いだ。[1] 戯曲類の蔵書について『澹生堂蔵書目』十二には「古今雑劇二十冊、名家雑劇十六冊」と記され、彪佳の第二子理孫の『奕慶蔵書楼目録』には「名劇彙七十二本、雑劇十四本、未訂雑劇二帙、抄本雑劇十二本」[2] とのみ著録されている。しかしながら、日記に詞曲の書を購ったという記事がしばしば見られるように、実際にはかなりの数を架蔵していたようである。また朱彝尊の『明詩綜』巻五十九「祁承㸁」の条によれば、元明の伝奇類だけでも少なくとも八百余部架蔵していたことが知られる。

参政、蔵書に富み、将に乱れんとするに、其の家、悉く載せて雲門寺に至る。惟だ元・明より遺し来たれる伝奇のみにして、多きこと八百余部に至る。而るに葉児楽府散套は与からず。

『遠山堂曲品・劇品』の完成は、勿論、このように厖大な『澹生堂』の蔵書に依拠したものであることは言を俟たない。加えて本稿において列挙する、彪佳自身の実際の観劇が寄与したところも閑却できない。にもかかわらず、彪佳については、専ら戯曲評論の分野でのみ知悉され、日記の存在は殆ど忽視されてきた。これまでに日記中の観劇記事をとりあげたものには、例えば、彪佳が観劇を好んだことの実例として日記の記事を部分的に彙録する黄裳氏[3]、既存の戯曲目に未著録の戯曲を日記の記事に依拠して輯録する葉徳均氏[4]をあげることができる。しかしながら、これらはいずれも日記を副次的な資料として用いているのであり、日記の記事自体の考察ではない。

彪佳の日記に見える観劇の記事に限定して言うならば、日記は彼が当時どのような戯曲を観たのかを我々に提示してくれるだけではない。すなわち、何時、どのような場でどのような演目が上演されたのか、更には読書人たちがどのような演目を好んだのかを知るうえで、いくつかの重要な示唆を与えてくれる。

まず腔調の流伝という観点からすれば、北京滞在中の崇禎五年から六年にかけての観劇の記録は、当時、北京においても崑山腔の演目が盛んに上演されていたことを如実に物語っている。王驥徳の『曲律』巻二によれば、崑山腔は万暦の末年には蘇州附近を中心として広く行われていた。[5] 北京流入の時期は詳らかではないけれども、日記よりすれば、崇禎年間には北京でも実際に上演されていたもののごとくである。

また彪佳の滞在した地域と演目との関係も看過できない。すなわち、北京、紹興、天津、杭州、武林、維揚といった異なる地域で共通に演じられた戯曲が存在する一方で、特定の地域でのみ上演された戯曲も散見する。観劇の回数が限られていることを措いても、これは戯曲の創作年代のみならず、実際の上演年代を知る手掛かりを示してくれるであろうし、他の地域に伝播し得るだけの評価を得ていたか否かをも表わしていよう。

更に当時の士大夫の上演演目の好尚という視座よりすれば、男女間の風情を主題とする戯曲だけではなく、忠孝節義にかかる故事を主題とするものも演目の約三割を占めているという事実は注目に値する。これは万暦年間の馮夢禎が専ら風情類の戯曲に耽溺したのとは異なり、士大夫の娯楽の場においても明清鼎革期という社会の様相が反映されていたことを予測させる。

これら演目の特徴、彪佳の観劇と時代との関わりについての詳細は、別稿において論ずるものとし、以下には祁彪佳の日記から、観劇の記事はもとより、唱曲管弦の鑑賞、読曲、散套作曲、詞曲書の購入や整書など、およそ芸能に関する記事を全て輯録するものとする。これらは上述のごとく彪佳個人の生活のみならず、明末の士大夫、とりわけ明清の鼎革期に生きた知識人の生活の典型をも示していると考えられる。同時に戯曲の伝播や評価といった当時の演劇界の実像を探るうえで極めて意義深い資料でもある。

《凡例》

- 本資料は『祁忠敏公日記』に現われる観劇などの資料を抽出し、年代順に配列したものである。その際、適宜、時事、及び祁彪佳の事蹟も掲げた。
- 『日記』の底本は、中華民国二十六年八月紹興県修志委員会校刊本（杭州古旧書店複制、一九八二）、及び北京図書館蔵『祁彪佳文稿』所収の鈔本（書目文献出版社、一九九一）に拠った。
- 『日記』に現われる戯曲については、撰者、本事、「古本戯曲叢刊」「六十種曲」「暖紅室彙刻伝奇」への収否、及び董康主編『曲海総目提要』（『提要』と略称）の収録巻数、荘一払編『古典戯曲存目彙考』（上海古籍出版社、一九八二、『彙考』と略称）の収録頁を明記した。
- 『日記』に現われる戯曲が『遠山堂曲品・劇品』に著録されている場合は、分類と評語を収載した。底本には「中国古典戯曲論著集成」第六冊（中国戯劇出版社、一九八〇）、及び上掲鈔本を用いた。
- 『日記』に現われる人物、地名等については、調査し得た範囲で掲げた。人物の詳細は原則として諱、字、号、本貫、登第年を掲げるにとどめ、典拠とした書物も一種類のみを掲げた。ただし典拠として掲げた書物には実際に目睹していないものもある。尚、人名索引や人名辞典などに依拠して典拠を明示しないものもある。

崇禎四年辛未（一六三一）　三十歳

公、二月、父祁承㸁の服闋る。（崇禎元年十一月一日、病没。六十六歳。）

七月二十八日、北京に抵る。以後、崇禎六年四月六日まで北京に駐す。

十月、福建道監察御史に任ぜらる。

〈渉北程言〉

◆在北京

十月初九日、方起櫛沐、王伯良之長公至、因詢伯良遺書、知詞曲之外、詩文尚富、

※王伯良：諱驥德、字伯良・伯驥、號方諸生、別署秦樓外史。會稽人。劇作家であり、また『曲律』の著もある。

十月十九日、蔣安然至、與之觀『嘯餘譜』『太霞新奏』、安然歌一曲而罷、

十一月初十日、…午後與聖鑒・姚甥出訪客、蔣安然遇於途偕之、再扣橘公兄寓、歩至前門、買『歴朝捷録』、及「傳奇」二種、

※聖鑒：陳情表、字聖鑒。

十一月十四日、…午後蔣安然他出、予方危坐、閲『犀軸記』、有感於沈公青霞事、

※『犀軸記』：闕名撰。演〈沈青霞〉事。佚。『提要』未著録。『彙考』著録（一六五三頁）。

※『遠山堂曲品』能品・『犀軸』：是記成於逆璫亂政時、借一沈青霞以愧世之不爲青霞者。雖不能協律比聲、逞運斤之技、亦可稱鐵中錚錚。

※沈青霞：諱練、字純甫、號青霞。會稽人。嘉靖十七年進士。宰相嚴嵩とその子世蕃の専横を彈劾したため保安に流謫され、更には謀叛の嫌疑をかけられ、腰斬の刑に處された。『明史』巻二〇

九。

十一月二十六日、何家表叔來晤、晩爐坐有感、因與聖鑒・安然言、古人有以愛妾換馬者、予昨得王覺斯詩、不忍釋手、倘挾豔姬、便當易此、安然以題極佳、不可無詞、乃刻燭共搆『漁燈兒』一套、漏下三商、已可歌矣、安然次成之、聖鑒又次成之、

※王覺斯：諱鐸、字覺斯、號嵩樵など。河南孟津人。天啓二年進士。福王のもとで東閣大學士に任ぜらる。『清史列傳』巻七十九。

閏十一月初五日、…再數歩、至鷲峰寺、禮栴檀像、歸來風甚厲、沽酒禦寒、覺餘興未已、乃憶予初度之日、郊遊頗暢、作『字字錦』一套、記其事、韻險而調復澁、成半即就榻、

※鷲峯寺：劉侗・于奕正『帝京景物略』巻四「西城内」の「鷲峯寺」の條に「城隍廟之南、齊簷小搆者、鷲峯寺。」とある。

閏十一月初六日、…燈下始理前曲、不一鼓足成之、

閏十一月十七日、…頃王雲萊同姜仁超來訪、姜言其鄉有徐君迎慶、徐相國之孫、善詞曲、其所蓄甚富、當爲予搆之、

※王雲萊：諱應遴、字堇父、號雲來。紹興人。『逍遙游雜劇』（『盛明雜劇二集』所收）の作がある。『崇禎忠節録』巻四。

※徐迎慶：字于室。松江人。『彙纂元譜南曲九宮正始』の著がある。

※徐相國：徐階、字子升、號少湖・存齋。松江華亭人。嘉靖二年進士。官は禮部尚書・東閣大學士に至る。『明史』巻二一三。

閏十一月十八日、慫恿聖鑒・安然兩兄作北劇、以資諧笑、蓋兩兄以能詞嘖有聲也、偶閲『蔡文姫傳』、因以「胡笳十八拍」令安然譜之、

閏十一月十九日、聖鑒思作劇、苦無佳題、乃就陳伯武借『豔異編』閲一過、皆兒女子態、聖鑒以其非英雄本色也、乃別爲『桐江老』一傳、

※『桐江老』：陳情表撰。演〈嚴子陵〉事。佚。『提要』未著録。『彙考』著録（四七三頁）。

閏十一月二十日、…午後小憩、日之夕矣、散歩即歸、讀疏之暇、擁爐譜牛秀才『周秦行記』一事、未成、

閏十一月二十三日、陳墨林過訪、『周秦行記』譜始成、

十二月二十五日、…柳白嶼至、出『乘槎劇』示予、讀未竟、顔壯其移具來酌、即邀白嶼同之、

※顔壯其：諱茂猷、字壯其、號光衷・宗璧居士。福建平和人。崇禎七年進士。

※十月初五日の條には「…洎晩、則王雲萊偕柳白嶼來訪、柳詞客也、」とある。

※『乘槎劇』：柳白嶼撰。演〈張博望〉事？。佚。『提要』未著録。『彙考』著録（五一七頁）。

崇禎五年壬申（一六三二）　三十一歲

公、北京に在り。

〈棲北冗言〉

◆在北京

正月初八日、…（李）子木欲觀燈市、乃從長安門並轡行、至則市物尚未集、惟買『洪武正韻』、及『雍熙樂府』二書、

※李子木：諱模、字子木、號灌溪。太倉州人。天啓五年進士。『小腆紀傳』巻十四。

※燈市：『帝京景物略』巻二「城東内外」の「燈市」の條に「今北都燈市、起初八、至十三而盛、迄十七乃罷也。燈市者、朝逮夕市、而夕逮朝燈也。市在東華門、東亙二里。」と言うように、當時の北京では、燈市は正月八日から十七日まで開かれていた。

※當時の北京の書肆については、胡應麟『少室山房筆叢』巻四

「經籍會通」に「凡燕中書肆、多在大明門之右、及禮部門之外、及拱宸門之西。」とある。

正月十二日、…歸則日幾午、乃與子木聯騎過燈市、遇李徂徠・郭天門兩年兄、市『陸宣公奏議』歸、晩與子木閲『雍熙樂府』、

※郭天門：諱都賢、字天門、號頑石・些菴。益陽人。天啓二年進士。『小腆紀傳』巻五十六。

二月十二日、…予走一札爲先容於彭讓木、王雲萊以『離魂劇』見示、隨手復之、

※『離魂劇』：闕名撰。演〈倩娘〉事。佚。『提要』未著録。『彙考』著録（一六九九頁）。

二月二十四日、未起、王銘韞至、別去、柳白嶼至、出二劇以示、

三月十四日、…至午、方思就陸叔度談、門役云、叔度在隣家、遂邀之、方與評陳自譽新作劇、

※陸叔度：諱啓浤、字叔度。平湖人。貢生。『小腆紀傳』巻五十八。

四月十六日、…午後稍簡疏抄、即赴黄王屋席、遲李景峯・劉闇然不至、予與王屋獨酌、觀『韋南康劇』、

※『韋南康劇』：闕名撰。本事不詳。佚。『提要』未著録。『彙考』未著録。

※劉闇然：諱炫、字闇然。麻城人。馮夢龍の門生で、『麟經指月』の參閲者。陸樹崙氏『馮夢龍研究』（復旦大學出版社、一九八七）七十七頁「交遊姓氏」に見える。

四月二十六日、…午後何象崗來晤、予設席、邀羅天樂・黄王屋・李梅公・劉闇然・李鹿胎酌、閲『珍珠衫劇』、

※『珍珠衫劇』：柳□□撰。演〈蔣興哥・王士英〉事。佚。『提要』未著録。『彙考』著録（一一三一頁）。

※『遠山堂曲品』能品・『珍珠衫』柳□□：此易蔣興哥爲王士英。「訛姦」一節、皆六婆爲之、而巧兒卒以貞終。然末段收煞、殊少精神。

※李梅公：諱元鼎、字梅公、號石園。江西吉水人。天啓二年進士。『清史列傳』巻七十九。

五月十一日、…甯方兄同七姪來、不數語、予即行赴周嘉定招、觀『雙紅劇』、

※『雙紅劇』：更生子撰。演〈紅線・紅綃〉事。「古本戯曲叢刊二集」收「文林閣本」。『提要』未著録。『彙考』著録（一〇九五頁）。

※『遠山堂曲品』能品・『雙紅』更生子：紅線・崑崙、俱有佳劇。穿插兩事、即敷以劇中之詞、雖未能大有錘鑪、却自婉麗可玩。

五月十二日、…午後同内子出、卜張二酉舊寓、隨至魏倩石舊寓、値金楚畹立談、少頃別去、予探吳玄素病、便赴劉曰都席、觀『宮花劇』、同席馮鄴仙・陳葉亭・王澗迎、

※『宮花劇』：周錫珪（禹錫）撰。演〈柳耆卿〉事。佚。『提要』未著録。『彙考』著録（一〇五二頁）。

※張二酉：諱爾葆、字葆正、號二酉・聯芳。山陰人。張岱の父耀芳の二弟。『山陰縣志』巻十八。

※馮鄴仙：諱元飆、字爾岌、號鄴仙。慈谿人。天啓二年進士。『明史』巻二五七。

五月十八日、…再赴阮旭青・凌若柯席、觀『拜月劇』、同席爲羅天樂・謝象三・錢瑞星・金楚畹、金去、予亦先歸、

※『拜月劇』（『幽閨記』又名『拜月亭記』）：施惠撰。演〈蔣世隆・王瑞蘭〉事。「古本戯曲叢刊集初集」收「世德堂本」「容與堂本」。「六十種曲」・「暖紅室彙刻傳奇」所收。『提要』未著録。『彙考』著録（七頁）。

※謝象三：諱三賓、字象三、號塞翁。鄞人。天啓五年進士。『明畫録』巻五。

五月二十日、…出北安門以肩輿歸、羊羽源、及楊君錫緱、皆候予晤、

※馬還初：諱思理、字達生、號還初。福建長樂人。天啓二年進士。『明書』卷一三九。

七月初二日、…晩赴李金我席、同席爲李玉完・張玉笥・李洧磬、觀『廻文劇』、

※『廻文劇』（『廻文錦』？）：闕名撰。本事不詳。佚。『提要』未著録。『彙考』著録（一六〇八頁）。

※張玉笥：諱國維、字止菴、號玉笥。金華東陽人。天啓二年進士。弘光元年、清軍が紹興に入るや、東陽に歸り、池中に死す。『明史』卷二七六。

七月初三日、…即赴朱佩南席、觀『彩箋半記』、及『一文錢劇』、與趙呦仲並馬歸、

※『彩箋半記』：闕名撰。本事不詳。佚。『提要』未著録。『彙考』著録（一六四二頁）。

※『一文錢劇』：徐復祚撰。演〈盧至〉事。「盛明雜劇」所收。『提要』著録（卷十二）。『彙考』著録（四六八頁）。

※『遠山堂劇品』逸品・『一文錢』陽初子：世間能大富人、決非凡輩。不必假盧至散財破慳、吾已知臭員外具有佛性矣。此劇南曲較勝北曲、白更勝於曲。至搆局之靈變、已至不可思議。

七月初五日、雨、體倦少臥、…予歸寓再憩、出赴苗大兄招、即予春仲所寓園也、緑陰滿庭、又一番景色矣、與黄水田・彭洗存、觀『西樓記』、未完以天意欲雨歸、

※『西樓記』：袁于令撰。演〈于叔夜・穆素徽〉事。「古本戲曲叢刊二集」收「劍嘯閣本」。「六十種曲」所收。『提要』著録（卷九）。『彙考』著録（一一三九頁）。

※『遠山堂曲品』逸品・『西樓』袁晉：寫情之至、亦極情之變。若出之無意、實亦有意所不能到。傳青樓者多矣、自『西樓』一出、而『綉襦』『霞箋』皆拜下風、令昭以此噪名海内、有以也。

晤後小憩、同羊至酒館、邀馮弓閭・徐悌之・施季如・潘葵初・姜端公・陸生甫、觀『半班雜劇』、

※『半班雜劇』：闕名撰。本事不詳。佚。『提要』未著録。『彙考』未著録。

六月二十一日、以肩輿出、晤商絅思、即赴田康侯席、田家園苑曲華整、予小憩山亭上、呉儉育繼至、小酌閲戲、党于姜・傅潛初・劉訒章・郭太薇相繼至、觀『紫釵劇』、至夜分乃散、

※『紫釵劇』：湯顯祖撰。演〈霍小玉〉事。「古本戲曲叢刊初集」收「柳浪館本」。「六十種曲」・「暖紅室彙刻傳奇」所收。『提要』著録（卷六）。『彙考』著録（八五三頁）。

※『遠山堂曲品』艷品・『紫釵』湯顯祖：先生手筆超異、即元人後塵、亦不屑步。會景切事之詞、往往悠然獨至、然傳情處太覺刻露、終是文字脱落不盡耳、故題之以「艷」字。

六月二十七日、…予與姜（顓愚）出、訪李玉完、屬其爲首、遂赴張濬之席、觀『琵琶記』、同席爲朱佩南・王大含・商絅思・陳自礜・張爾唯、

※『琵琶記』：高明撰。演〈蔡邕〉事。「古本戲曲叢刊初集」收「明刊本」。「六十種曲」・「暖紅室彙刻傳奇」所收。『提要』著録（卷五）。『彙考』著録（十二頁）。

※姜顓愚：諱思睿、字顓愚。慈谿人。天啓二年進士。『明史』卷二三三。

※張爾唯：諱學曾、字爾唯、號約菴。會稽人。『國朝耆獻類徵』卷二一七。

六月二十九日、…午後出探馬還初、即同呉儉育作主、僅邀曹大來・沈憲中二客、觀『玉盒劇』、

※『玉盒劇』：楊文奎撰。本事不詳。佚。『提要』未著録。『彙考』著録（三九一頁）。

七月十三日、…夏睿公邀予、與陸生甫・劉振賢・呉愼旃、爲其太夫人壽、一鼓始赴之、觀『異夢記』、

※『異夢記』：王元壽撰。演〈王奇俊・顧雲容〉事。「古本戲曲叢刊二集」收「玉茗堂評本」。『提要』未著録。『彙考』著録（九四一頁）。

※『遠山堂曲品』能品・『異夢』王元壽：無端渭塘一夢、王生幾遭縲絏。顧女兩厄於奸人、其魘夢耶。賴有李中丞・呉學士、成名成婚、方不負碧甸環之約耳。此曲排場轉宕、詞中往往排沙見金、自是詞壇作手。

七月十五日、…晩邀（趙）呦仲兄代作主、予隨赴之、觀『寶劍記』、

※『寶劍記』：李開先撰。演〈林冲〉事。「古本戲曲叢刊初集」收「嘉靖原刻本」。『提要』著録（卷五）。『彙考』著録（一〇五頁）。

※『遠山堂曲品』能品・『寶劍』李伯華：中有自撰曲名。曾見一曲採入於譜、但於按古處反多訛錯。且此公不識練局之法、故重複處頗多。以林冲爲諫諍、而後高俅設白虎堂之計、末方出俅子謀冲妻一段、殊覺多費周折。李自負在康對山・王渼陂之上、問王元美、「此記何如『琵琶』」。王謂、「公辭之美、不必言、第令呉中教師十人唱過、隨腔字字改妥、乃可耳」。李拂然罷去。尚有『登壇』一記、未見。

七月十六日、…沈太和促赴酌、即乘暮色出、訪汪月掌不値、同席爲朱佩南・潘朗仕・孫湛然・陳君孔教、觀『蕉帕記』、

※『蕉帕記』：單本撰。演〈龍驤・胡氏〉事。「古本戲曲叢刊二集」收「文林閣本」。「六十種曲」所收。『提要』未著録。『彙考』著録（八九六頁）。

※『遠山堂曲品』逸品・『蕉帕』單本：槎仙生而不好學、故詞無腐病。生而不事家人産、故曲無俗情。且又時以衣冠優孟、爲按拍周郎、故無局不新、無詞不合。龍驤・弱妹諸人、以毫鋒吹削之、遂令活脱生動。此君於詞曲、洵有天才。

七月十九日、…即赴朱佩南招、在淨業寺之左、同席爲何象崗・張三峩・張爾唯、觀小戲、如弄瓦等技、皆絶神、爲之解頤、

七月二十日、…即赴陸生甫招、同席爲姜顓愚・王銘韞・朱爾公、觀『□花記』、

八月初三日、…即出赴朱爾公招、陸生甫不至、朱佩南先去、獨予偕呉五兄・丁天心、觀『教子劇』、優人甚佳、三鼓方歸、

※『教子劇』（『尋親記』）：王錢撰。演〈周羽・周瑞隆〉事。「古本戲曲叢刊初集」收「富春堂本」。「六十種曲」所收。『提要』著録（卷十四）。『彙考』著録（八八五頁）。

八月初六日、…入皇城、期馮鄴仙、予待於西苑、馮又待於闕右、遂兩誤、及馮至西華門、予已歸、乃入飯於韓中貴家、適汪石臣在、觀「走解之戲」、

※走解之戲：曲馬のことか。後掲（崇禎十一年十一月十一日）の阮大鋮『牟尼合』第四齣「會競」にも「走解」の場面がある。

八月初十日、…午後即出訪倪鴻寶、便道赴田康宇席、小酌於山亭、劉闇然・路皓月・趙暨垣・郭太薇至、乃就席、觀『雙珠傳奇』、

※『雙珠傳奇』：沈鯨撰。演〈王楫・郭貞娘〉事。「古本戲曲叢刊初集」收「汲古閣本」。「六十種曲」所收。『提要』著録（卷十七）。『彙考』著録（八三五頁）。

※倪鴻寶：諱元璐、字玉汝、號鴻寶。上虞人。天啓二年進士。崇禎十七年三月、京師に在り、城陷つるや自縊す。『明史』卷二六五。

※路皓月：諱振飛、字見白、號皓月。廣平曲周人。天啓五年進士。『明史』卷二七六。

八月十三日、…予即至陸園、設席、邀解拙存・周玄應・呉崑池飲、已後至朱佩南席、則馮鄴仙・姜顓愚且別矣、獨與林栩菴觀戲數折歸、

八月十五日、…少憩、出晤鍾象臺・陸生甫、即赴同郷公會、皆言路諸君子也、馮鄴仙次至、姜顓愚再至、餘俱先後至、觀『教子傳奇』、客情俱暢、奕者奕投、壺者投壺、雙陸者雙陸、

八月二十五日、…予出晤林鶴胎、便道詢馬還初寓、即至席、所邀呉祖洲・朱集菴・陳瓢菴・沈太和・朱佩南聚飲、觀『拜月記』、

八月二十七日、…午後李餘我・駱太和來晤、予出晤、別馮留仙、即赴周玄應席、同席爲郭太薇・禹海若・傅潛初・黄又生、觀『異夢記』數折、即赴解拙存席、同席爲呂初陽・馮楨卿、

※禹海若：諱好善、字海若。河南汜水人。天啓二年進士。『崇禎忠節録』巻二十一。

九月初十日、…午後與呉儉育・胡芝山・凌茗柯・王銘韞公、請馮楨卿・楊忠吾・劉訒韋、皆吾郷舊公祖父母、觀『祝髪記』、

※『祝髪記』：張鳳翼撰。演〈徐孝克〉事。「古本戯曲叢刊初集」収「富春堂本」。『提要』著録（巻七）。『彙考』著録（八三一頁）。

※凌茗柯：諱義渠、字駿甫、號茗柯。烏程人。天啓五年進士。崇禎十七年三月、京師に在り、城陥つるを聞き縊死す。『明史』巻二六五。

九月二十二日、…日昃方歸、飯罷、丁印趨來晤、出赴呉昆池席、同席爲王孺初・楊大豫、再赴黄水濂席、同席爲郭太薇・鍾昭明・劉振賢・張篤匪、觀『明珠記』、

※『明珠記』：陸采撰。演〈王仙客・劉無雙〉事。「古本戯曲叢刊初集」収「汲古閣本」。「六十種曲」所收。『提要』著録（巻七）。『彙考』著録（八一二頁）。

※『遠山堂曲品』雅品殘稿・『明珠』：記王仙客・劉無雙。文人之情、才士之致、具見之矣。

九月二十六日、…至晩歸、即赴莊陽初席、同席爲林栩菴・曹方城・趙景毅、再赴孫湛然席、同席爲李洧磐、觀散劇、席間聞縉紳就劉西市、爲之悚然、

九月二十八日、…即赴李洧磐席、同席爲朱佩南・張三我・朱集菴・孫湛然、觀小童作『春蕉記』、

※『春蕉記』：王錢撰。演〈宋玉・季清呉〉事。「古本戯曲叢刊二集」収「汲古閣本」。「六十種曲」所收。『提要』未著録。『彙考』著録（八八四頁）。

十月初九日、…晩出赴李鹿胎席、同席爲同門兄弟也、觀『明珠記』、再赴劉訒韋席、同席皆越中親友也、觀『香囊記』、

※『香囊記』：邵燦撰。演〈張九成〉事。「古本戯曲叢刊初集」収「繼志齋本」。「六十種曲」所收。『提要』著録（巻五）。『彙考』著録（九六頁）。

十月十二日、…薄暮始歸、途遇馮鄴仙、談於馬上、予即與呉儉育赴金稠原・汪生洲・方書田席、觀『百花記』、

※『百花記』：闕名撰。演〈百花公主〉事。佚。『提要』著録（巻四十五）。『彙考』著録（一五六六頁）。

※『遠山堂曲品』能品・『百花』：内傳元時安西謀逆、江女右花・江生六雲以被擒爲内應。而安西之百花郡主、卒與六雲偕合巹。結搆亦新、但意味尚淺。

※方書田：諱逢年、字書田。遂安人。萬暦四十四年進士。明朝滅亡後、清に降り貳臣に數えられる。『明史』巻二五三。

十月十三日、…午後張觀濤來晤、談久、予乃與内子出、觀馮鄴仙舊寓、將卜焉、便道赴王銘韞席、同席爲徐未孩・張玉笥・曹方城・呉儉育、觀『連環記』、

※『連環記』：王濟撰。演〈王允・呂布・董卓・貂蟬〉事。「古本戯曲叢刊初集」収「鈔本」。『提要』著録（巻四）。『彙考』著録（九九頁）。

※『遠山堂曲品』雅品殘稿・『連環』：元有『奪戟』劇、云貂蟬小

字紅昌、原爲布配、以離亂入官、掌貂蟬冠、故名。後仍作王司徒義女、而連環之計、紅昌不知也。

十月十四日、…晩即入公席、邀劉訒葦・郭太薇・楊忠吾席、且半矣、觀『檀扇記』、

※『檀扇記』：史槃撰。演〈凌生〉事。佚。『提要』未著録。『彙考』著録（九一八頁）。

※『遠山堂曲品』能品・『檀扇』史槃：叔考諸作、多是從兩人錯認處搏捖一番。一轉再轉、每於想窮意盡之後見奇。幸其調屬本色、開卷便見其概、不令人無可捉摹耳。

十月十五日、…午後李玉完過話、晩同趙吻仲・鄭季公赴金得之酌、觀『紅拂記』、

※『紅拂記』：張鳳翼撰。演〈李靖・紅拂〉事。「古本戲曲叢刊初集」收「呉興凌氏刊本」。「六十種曲」・「暖紅室彙刻傳奇」所收。『提要』未著録。『彙考』著録（八三〇頁）。

※『遠山堂曲品』能品・『紅拂』張太和：湯海若序此記云、「『紅拂』已經三演。在近齋外翰者、鄙俚而不典。在冷然居士者、短簡而不舒。今屏山不襲二家之格、能兼諸劇之長」。然呂鬱藍謂其「通篇不脱俗氣」、當亦不能爲屏山諱。

十月二十日、…午後作金楚畹書、出拜一二客、即赴公席、與呉儉育・阮旭青・李洧磐、邀鄭達衷・施曠如・習紫瑤・黄九芝・姚心翼・駱履康・許石虹、觀『五福記』、

※『五福記』：闕名撰。演〈韓琦〉事。「古本戲曲叢刊三集」收「清初鈔本」。『提要』未著録。『彙考』著録（一五四一頁）。

※『遠山堂曲品』能品・『五福』：韓忠憲事功甚盛、此獨取其還妾一事。先後貫串、頗得搆詞之局。詞有叶處、亦有用韻不穩處、若出兩手。

十月二十二日、…下午王本初來晤、呉達行來深談、至暮乃赴夏忠吾・劉以升席、視『綵樓記』、

※『綵樓記（破窰記）』：闕名撰。演〈呂蒙正〉事。「古本戲曲叢刊二集」收「鈔本」。『提要』著録（卷三十六）。『彙考』著録（一三二頁）。

十月二十四日、…即與阮（旭青）赴王銘韞席、同席爲林栩菴・水向若・張玉笥・呉儉育・李洧磐、觀『八義記』、

※『八義記』：徐元撰。演〈程嬰・公孫杵臼〉事。「古本戲曲叢刊二集」收「汲古閣本」。「六十種曲」所收。『提要』著録（卷十三）。『彙考』著録（九一一頁）。

※『遠山堂曲品』能品・『八義』徐□□（叔回）：傳趙武事者有『報寃記』、又有『接纓記』、此則以『八義記』名。記中以程嬰爲趙朔友、以嗾犬在宣孟侍宴之際、以韓厥生武而不死於武、以成靈壽之功、皆本於史傳、與時本稍異。運局搆思、有激烈閎暢之致、尚少清超一境耳。

十月二十五日、…午後少憩、即出與（呉）儉育邀金稠原・汪生洲・方書田、及王銘韞、觀『石榴花記』、

※『石榴花記』：王元壽撰。演〈張幼謙・羅惜惜〉事。佚。『提要』著録（卷十八）。『彙考』著録（九三九頁）。

※『遠山堂曲品』能品・『石榴花』王元壽：伯彭喜爲兒女子傳情、必有一段極精警處、令觀場者破涕爲歡、若此記羅惜惜尋花下之盟、竟致悞約是也。然結末只宜收拾全局、皆叠起峯巒、未免反致障眼、如惜惜之悞謁、非乎。

十月二十八日、…即馮（鄴仙）寓作書、與呉儉育就席、邀黄水濂・宋長元・陳蕊亭・鍾象臺・張留孺飲、觀『拜月記』、

※宋長元：諱應亨、字長元。萊陽人。天啓五年進士。『明史』卷二六七。

十一月十四日、…薄暮而竣策騎、觀袁環中所寓室、即入陸園、爲同鄉

公餞林栩菴會、主其事者張玉笥・阮旭青也、觀『牡丹亭記』、
※『牡丹亭記』：湯顯祖撰。演〈柳夢梅・杜麗娘〉事。「古本戲曲叢刊初集」收「泰昌間朱墨刊本」。「六十種曲」・「暖紅室彙刻傳奇」所收。『提要』著録（卷六）。『彙考』著録（八五四頁）。
※袁環中：諱樞、字伯應、號環中・石愚。
十一月十六日、…午後晤劉須彌・喬聖任、又晤胡芝山、商以疏稿、即赴張三義席、同席爲郭太薇・楊忠吾、觀『牡丹亭記』、
※喬聖任：諱可聘、字君徵・聖任。寶應人。天啓二年進士。『小腆紀傳』卷十四。
十一月十八日、…已入劉闇然席、同席爲金雙南・喬聖任・黄王屋・李鹿胎、觀『合紗記』、
※『合紗記』：史槃撰。演〈崔衮〉事。『怡春錦』殘存佚曲。『提要』著録（卷十）。『彙考』著録（九一六頁）。
※『遠山堂曲品』能品・『合紗』史槃：傳兒女子情者、須婉轉、尤須灑脱。若合父・母・兄・妹・門生・故友、盡人而商量一紗、雖奇姻巧湊、不無反爲情累乎。叔考於曲道稱大匠、此處猶不無傷指之慮。
十一月二十日、…予亦就酌、即別赴宋長元席、同席爲呉昆池・阮旭青・黄水濂・劉振賢・錢瑞星、觀『玉合記』、
※『玉合記』：梅鼎祚撰。演〈韓翃・柳氏〉事。「古本戲曲叢刊初集」收「容與堂本」。「六十種曲」所收。『提要』未著録。『彙考』著録（八三九頁）。
※『遠山堂曲品』艶品・『玉合』梅鼎祚：駢驪之派、本於『玉玦』、而組織漸近自然、故香色出於俊逸。詞場中正少此一種艶手不得、但止題之以艶、正恐禹金不肯受耳。
十一月二十七日、…晚即赴喬聖任席、同席爲呉達行・黄王屋・劉闇然・李鹿胎、觀『百花記』、
十二月初二日、…予仍出就稽山會館訪客、再晤汪月掌、座上値張篤匪、又晤呉鹿友、向王東里、請假入陸園、邀金雙南・呉儉育・呉磊齋・李鹿胎・黄王屋・劉闇然・喬聖任飲、觀小優『桃符記』、
※『桃符記』：沈璟撰。演〈劉天儀・裴青鸞〉事。「古本戲曲叢刊初集」收「乾隆間精鈔本」。『提要』著録（卷十三）。『彙考』著録（八四五頁）。
※『遠山堂曲品』雅品殘稿・『桃符』：演『後庭花』劇爲南曲。曲第二十八折、已覺有無限波瀾矣。聞舊有『劉天義』傳奇、今不存。
※呉鹿友：諱甡、字鹿友。揚州興化人。萬暦四十一年進士。『明史』卷二五二。
※呉磊齋：諱麟徵、字聖生・來皇、號磊齋。海鹽人。天啓二年進士。崇禎十七年三月、京師に在りて西直門を守り、城陷ちて自殺す。『明史』卷二六六。
十二月十六日、…即赴陸園、與阮旭青・李洧磐・馮鄴仙公、請王銘韞・呉磊齋・陸生甫、觀『繡襦記』、
※『繡襦記』：薛近兖撰。演〈鄭元和・李亞仙〉事。「古本戲曲叢刊初集」收「明末凌氏朱墨刊本」。「六十種曲」所收。『提要』未著録。『彙考』著録（八二四頁）。
※『遠山堂曲品』雅品殘稿・『綉襦』：聞有演『玉玦』而青樓絶迹、諸妓醵金搆此曲、爲紅裙吐氣、爲蕩子解嘲。
十二月二十三日、…予再邀顔茂齊、及鄭・趙兩兄、觀雜戲、
十二月二十四日、…予出四川會館、與呉儉育邀客多不至、僅張君平一人耳、乃邀顔茂齊・王銘韞・鄭・趙兩君共飲、觀雜戲、
十二月二十五日、…午後邀王天柱・王本初・董持阿・姚君錫・沈君之玉・茹君應禧・朱君國錡飲、客去、田康宇招飲、至則郭太薇・馮鄴仙・禹海若先坐於密室、花香襲人、弄杯數巡、復出廳事、觀雜戲、再於書齋觀『馬陵道劇』、三鼓餘歸、

※『馬陵道劇』：闕名撰。演〈孫臏・龐涓〉事。佚。『提要』著録（巻三十八）。『彙考』著録（一六二一頁）。

崇禎六年癸酉（一六三三）　三十二歳

公、三月、巡撫蘇松に任ぜらる。四月六日、北京を出立、五月十七日、紹興に立ち寄り、六月四日、任地常熟に入る。

〈役南瑣記〉

◆在北京

正月初八日、…午後出於陸園、公請張留孺公祖、預席者、爲李玉完・李洧磐・倪旭青・馮鄴仙・水向若、觀『紅拂記』、

正月初九日、…午後赴馮鍾華席、同席爲玄會一・傅熙宇・馬君常・呉淡人呉愼旃・韓芹城、觀『花筵賺』、半席以問藥先歸、

※『花筵賺』：范文若撰。演〈温嶠・謝鯤〉事。「古本戯曲叢刊二集」收「博山堂本」。『提要』未著録。『彙考』著録（九八九頁）。

※『遠山堂曲品』逸品・『花筵賺』范文若：洗脱之極、意局皆凌虚而出、眞是「語不驚人死不休」。温之癡、謝之顚、此記之空峭、當配之爲三。

※玄會一：諱默、字會一。直隷靜海人。萬暦四十七年進士。『明詩綜』巻六十一。

※馬君常：諱世奇、字君常。無錫人。崇禎四年進士。崇禎十七年、京師に在り、城陷つるや自殺す。『明史』巻二六六。

正月十一日、…午後張華東師來、予以衙門考核陞轉二事爲言、張師首肯、胡厚菴相繼來、予即出與李玉完・丁印趨・錢瑞星公、請黎公祖、觀『西樓記』、

正月十二日、…郭太微・劉訒韋諸君來、遂歩行市一二小物、遇陳生甫・浦長卿、與縱觀肆中、所有以淡心處之、皆可無欲也、就樓小飲、觀『灌園記』、以鄭觀于促赴其招、與呉磊齋・李生拱觀『唾紅記』、月上乃歸、

※『灌園記』：張鳳翼撰。演〈田法章〉事。「古本戯曲叢刊初集」收「富春堂本」。「六十種曲」所收。『提要』著録（巻十三）。『彙考』著録（八三二頁）。

※『唾紅記』（『吐紅記』）：史槃撰。演〈皇甫孝常〉事。「古本戯曲叢刊三集」収「清鈔本」。『提要』未著録。『彙考』著録（九一六頁）。

※『遠山堂曲品』能品・『唾紅』史槃：叔考匠心創詞、能就尋常意境、層層掀翻、如一波未平、一波復起。詞以淡爲眞、境以幻爲實、『唾紅』其一也。

正月十六日、雪、晴、…歸而更衣、赴呉儉育席、所招客皆不至、呉乃招王銘韞、攜蔡楚玉・臧幼惺、觀『弄珠樓記』、

※『弄珠樓記』：王異撰。演〈阮翰・霏烟・柳枝〉事。「古本戯曲叢刊三集」収「凝瑞堂本」。『提要』未著録。『彙考』著録（九二八頁）。

※『遠山堂曲品』能品・『弄珠樓』王元功：輕描淡染、不欲一境落於平實。但姓名之錯認、創於『拜月』、遂多爲不善曲者所襲。無功今之作手、何不別尋結搆耶。

正月十七日、…歸寓、邀馮起衡・弓閭・鄴仙昆仲飲、鄴仙向以傀儡甚佳、乃設傀儡觀之、

正月十八日、…午後出於眞定會館、邀呉儉育・李玉完・王銘韞・水向若・凌茗柯・李洧磐・呉磊齋飲、觀『花筵賺記』、記爲范香令作、巧趣疊出、坐客解頤、

正月十九日、…午後出於倪鴻寶寓、公請吉州諸紳、止李緝敬・黄水濂至、觀『葛衣記』、

※『葛衣記』：顧大典撰。演〈任西華〉事。鈔本存。『提要』著録（卷十三）。『彙考』著録（八五一頁）。

正月二十日、…歸則日旰矣、邀文台仙・周玄應・劉振賢・孫松石・程雪窗飲、觀『衣珠記』、

※『衣珠記』：闕名撰。演〈趙旭初〉事。「古本戲曲叢刊三集」收「清初鈔本」。『提要』著録（卷十三）。『彙考』著録（一五六二頁）。

※文台仙：諱士昂、字台仙。攸人。天啓二年進士。『小腆紀傳』卷五十九。

※孫松石：諱三傑、字景濂、號松石。山東樂安人。天啓五年進士。『明史』卷二五七・三〇八。

正月二十一日、…午後出晤游羽儀・呉瑯梅・張觀濤・馬擎臣・潘朗叔、出城訪胡厚菴不値、入城晤周冲白、乃値厚菴年伯、即赴傅東渤・程我旋諸年伯席、與王秀里觀『綵樓記』、

正月二十二日、…入城吊陳抑齋、即赴稽山會館、邀駱太如・馬擎臣、則先至矣、再邀潘朗叔・張三我・呉于王・孫湛然・朱集菴・周無執飲、觀『西樓記』、以次日早朝即散、

※稽山會館：『帝京景物略』卷四「西城内」の「稽山會館唐大士像」の條に「凡入出都門者、籍有稽、游有業、困有歸也。」と言うように、會稽出身者の宿泊施設。

正月二十四日、…得李緝敬扎、即手復之、乃赴呉金堂席、同席爲桂韡生・朱集菴・朱佩南、觀『紅拂記』、予即席觀王坤政府諸疏、

正月二十六日、…飯後予出晤桂韡生・汪生洲・于素生、後從松樹衚衕、晤陶書倉、將至菜市口、已抵暮矣、乃知錢瑞里席在其寅、策馬赴之、泥濘爲苦、同席爲宋雨恭・黄水濂、觀『夢磊記』、

※『夢磊記』：史槃撰。演〈文景昭〉事。「南詞新譜」殘存佚曲。『提要』著録（卷九）。『彙考』著録（九一八頁）。

※『遠山堂曲品』能品・『夢磊』史槃：文景昭富貴姻縁、俱得之於石、故夢中白玉蟾以「磊」字授之、其中結構、一何多奇也。但劉以司農而夜送女於文生旅邸、與『檀扇』之以甥女私慰凌生、皆非近情之事。

※宋雨恭：諱權、字元平、號雨恭。商丘人。天啓五年進士。『清史稿』卷二三八。

正月二十七日、…頃之李玉完・丁印趨・錢瑞星・呉祖洲・王銘韞俱來、觀『石榴花記』、予以次早入朝乃先歸、

二月初三日、…午後出晤袁臨侯、再晤郭太薇、即赴李金我・姜箴勝席、同席爲水向若・呉儉育・張玉笥・王銘韞、觀『鸂釵記』、

※『鸂釵記』：史槃撰。演〈宋璟・荆燕紅・康壁・眞國香〉事。「古本戲曲叢刊三集」收「楊居宋刊本」。『提要』未著録。『彙考』著録（九二〇頁）。

※『遠山堂曲品』能品・『鸂釵』史槃：此記波瀾、只在荆公悞認宋廣平爲康壁耳、搬弄到底、至於完姻之日、欲使兩女互易、眞戲場矣。柳沃若桃鬪一段、大有逸趣。但韋安石之搆國香、境界叠見、其中宜删繁就簡。

※袁臨侯：諱繼咸、字季通、號臨侯。宜春人。天啓五年進士。崇禎十七年、捕えらるるも屈せず刑せらる。『明史』卷二七七。

二月初七日、…午後邀呉玄素・呉期生・丁天心・王大含・張君繼第・于君之士・苗氏三兄・姜君廷幹飲、客半至、陳蕊亭來晤、陳去客乃聚飲、觀小優『獅吼記』、

※『獅吼記』：汪廷訥撰。演〈陳季常・柳氏〉事。「古本戲曲叢刊二集」收「汲古閣本」。「六十種曲」所收。『提要』未著録。『彙考』著録（八六六頁）。

※『遠山堂曲品』逸品・『獅吼』汪廷訥：初止一劇、繼乃雜引妬婦諸傳、證以内典、而且曲肖以兒女子絮語口角、遂無境不入趣矣。曲・白恰好、迥越昌朝他本。

二月初八日、…予入呂園、邀桂韡生・張貞予・章岵梅・應宋符飲、觀『百順記』、

※『百順記』：闕名撰。演〈王曾〉事。乾隆間懋德堂鈔本存。『提要』著録（卷十四）。『彙考』著録（一五六七頁）。

※『遠山堂曲品』能品・『百順』：記中述王公旦立朝大節、及丁謂搆寇公事。一覽朗徹、詞章爛然。

二月十二日、…午後馮鄴仙至索飯、飯已、同之訪沈雲升不値、再去、晤何象崗、托其爲先子題墓、即同赴呂初陽席、同席爲朱西崑、觀『雄辯記』、

※『雄辯記』：闕名撰。本事不詳。佚。『提要』未著録。『彙考』著録（一六四七頁）。

※沈雲升：諱猶龍、字雲升。松江華亭人。萬曆四十四年進士。『明史』卷二七七。

二月十五日、…頃歸、邀李金我・姜箴勝・丁印趨飲、席間邀張三我來晤、觀『香囊記』、客散已鷄鳴矣、

二月十六日、…即赴彭讓木・曾璠雲席、同席爲呉磊齋、觀『紅梅記』、

※『紅梅記』：周朝俊撰。演〈裴禹・李慧娘〉事。「古本戲曲叢刊初集」收「玉茗堂刊本」。『提要』著録（卷七）。『彙考』著録（八五六頁）。

※『遠山堂曲品』能品・『紅梅』周□□（儀玉）：手筆輕倩、每有秀色浮動曲白間、當是時調之雋。裴舜卿無端一遇、遂冒門壻拒似道之聘、倘非李惠娘以幽歡解免、舜卿危矣。書生乘興之事、其可再乎。

◆在紹興

五月二十日、雨、欲晤府間諸公祖、不果、從城之東南謁客、即入外父家赴其酌、觀『望湖記』、

※『望湖記』（『望湖亭』？）：沈自晉撰。演〈顔俊・錢選〉事。「古本戲曲叢刊二集」收「明末刊本」。『提要』著録（卷五）。『彙考』著録（八七三頁）。

五月二十一日、雨、出晤張芝亭・錢麟武・胡璞完諸公、即至外祖家、奉老母、赴諸舅席、觀『李丹記』、

※『李丹記』：劉還初撰。演〈裴諶〉事。萬曆間朱墨刊本存。『提要』未著録。『彙考』著録（八八五頁）。

※『遠山堂曲品』雅品殘稿・『李丹』：劉慈水閲擲李事、寄之屬鬱藍生作記、二十日而成、鬱藍尚自遜爲握管未疾也。

※錢麟武：諱象坤、字弘載、號麟武。會稽人。萬曆二十九年進士。『明史』卷二五一。

崇禎七年甲戌（一六三四）　三十三歳

公、巡撫蘇松の任にあり、常熟に駐す。

崇禎八年乙亥（一六三五）　三十四歳

公、周廷儒の排斥を受け、紹興に退居す。

『明史』卷二七五「祁彪佳傳」に言う。「出按蘇・松諸府、廉積猾四人杖殺之。宜興民發首輔周廷儒祖墓、又焚翰林陳于鼎・于泰廬、亦發其祖墓。彪佳捕治如法、而於廷儒無所徇、廷儒憾之。回道考覈、降俸、尋以侍養歸。」

四月九日、北京を發す。五月十四日、杭州に抵る。六月二十九日まで杭州に滯在し、その後、紹興に抵る。以後、崇禎十五年九月、河南道事として復官するまで紹興に在り。

◆在天津

四月十五日、早飯後抵天津、二守李君應節・三守費君世澤來謁、予至郵亭晤之、…已復入城、禱神設戲畢、投親友刺、晤張子珠、及予族兄、抵舟呉期生相邀、乘別舟往彼命酌、觀『白梅記』、内有『東坡夢劇』、別時已二鼓矣、

※『白梅記』：闕名撰。本事不詳。佚。『提要』未著録。『彙考』著録（一五六一頁）。

※『東坡夢劇』（『花間四友東坡夢』）：呉昌齡撰。演〈蘇軾〉事。『元曲選』所收。『提要』著録（卷二）。『彙考』著録（二二八頁）。

◆在杭州

五月十七日、…晩赴呉二如酌、同席爲韓求仲・王峩雲・沈虎臣・汪然明・王百朋、觀『雙串記』、

※『雙串記』：史槃撰。本事不詳。佚。『提要』未著録。『彙考』著録（九一九頁）。

※『遠山堂曲品』能品・『雙串』史槃：大荒此記、操縱合法、韻度俱勝。叔考少加損益、便有史叔語氣矣。

※呉二如：諱允焞。

※韓求仲：諱敬、字簡與、號求仲・止修。烏程人、一作歸安人。萬暦三十八年進士。『明詩綜』卷六十。

※沈虎臣：諱德符、字景倩・虎臣。秀水人。萬暦四十六年舉人。『列朝詩集』丁集下。

五月二十一日、…午後出投數刺、赴張劬思・柴雲倩・洪星卿・嚴公威招、同席爲馮弓閭・陸生甫、觀『梅花記』、

※『梅花記』：徐霖撰。本事不詳。佚。『提要』未著録。『彙考』著録（八二七頁）。

五月二十二日、天雨、入城晤馮弓閭、吊錢瑞里、再投數刺歸、午後邀余心涵・王峩雲・呉二如酌、觀『空函記』、

※『空函記』（『空緘記』？）：王元壽撰。演〈劉元普〉事。佚。『提要』著録（卷四十三）。『彙考』著録（九四〇頁）。

※『遠山堂曲品』能品・『空緘』王元壽・劉元普之仗義、奇矣。李伯承一不識面之交、以空緘托妻子、奇更出元普上。此記貫串如無縫天衣、詞曲中忠・孝・節・俠、種種具足。此與『紫綬』、皆伯彭有關世道文字也。

五月二十三日、天雨、龐穉龍至、偕之訪商十三兄、張卿子・王百朋亦適至、邀同赴穉龍酌、觀『秋簫記』、

※『秋簫記』：闕名撰。本事不詳。佚。『提要』未著録。『彙考』著録（一六一一頁）。

五月二十四日、…午後體倦熟寐、起赴王峩雲酌、同席爲余心涵、觀『宵光記』、

※『宵光記』（『宵光劍』？）：徐復祚撰。演〈衛青・鐵勒奴〉事。「古本戲曲叢刊初集」收「唐振吾刊本・飲流齋訂本」。『提要』未著録。『彙考』著録（九〇四頁）。

五月二十五日、…午後馮弓閭來、同予作主、邀張劬思・柴雲倩・嚴公威、觀『南柯記』、

※『南柯記』：湯顯祖撰。演〈淳于棼〉事。「古本戲曲叢刊初集」收「萬暦間刊本」。「六十種曲」・「暖紅室彙刻傳奇」所收。『提要』著録（卷六）。『彙考』著録（八五三頁）。

五月二十八日、微雨、汪彦旻攜酌相餉、同王百朋觀『黄孝子記』、優人搬演生動、能使觀者出涕、

※『黄孝子記』（『黄孝子尋親記』）：闕名撰。演〈黄普・陳氏〉事。「古本戲曲叢刊初集」收「鈔本」。『提要』未著録。『彙考』著録（六六頁）。

六月初八日、…午下施淡甯邀酌於玉蓮亭、觀女梨園演『江天暮雪』數

齣、

※『江天暮雪』（『江天雪』？）：闕名撰。演〈崔君瑞・鄭月娘〉事。『納書楹曲譜』選有散齣。『提要』著録（卷十七）。『彙考』著録（一五六三頁）。

六月十六日、…午後大雨、予小憩而出、共觀『題塔記』、

※『題塔記』：張楚叔撰。演〈梁灝〉事。唐振吾刊本存。『提要』著録（卷三十六）。『彙考』著録（一〇一二頁）。

◆在紹興

八月初八日、袁鳧公自呉中過訪、得張石叟公祖書、即手復之、鳧公攜有善鼓琴者張從之、彈「梅花客窗」諸曲、音節韶亮、非尋常所聞也、

※袁鳧公：諱于令、字令昭・鳧公、號籜菴。呉縣人。諸生。清に入って荆州府知府を務めた。

八月十一日、…午後作書、餞羅和陽公祖、止祥兄於燈下作鬼戲、眉面生動、亦一奇也、

※止祥兄：祁彡佳、字止祥、晩號雪瓢。山陰人。天啓七年舉人。祁彪佳の叔父承勳の嗣子。『明畫録』巻五。

※祁彡佳は張岱に「余好塡詞、則有袁籜菴（于令）・祁止祥爲曲學知己」（『瑯嬛文集』巻六「祭周戩伯文」）と言わしめた人物である。また『陶庵夢憶』巻四「祁止祥癖」には「人無癖不可與交、以其無深情也。人無疵不可與交、以其無眞氣也。余友祁止祥有書畫癖、有蹴踘癖、有鼓鈸癖、有鬼戲癖、有梨園癖。」と言い、「鬼戲」を祁彡佳の「癖」のひとつに數えている。

八月十四日、張五洩長公早見顧、隨別去、邀荆璞巖・王雲岫酌、演『百順記』、

八月十九日、爲老母誕日、諸兒媳祝壽畢、親姬來賀者、共舉素酌、觀『鵲橋記』、

※『鵲橋記』：闕名撰。本事不詳。佚。『提要』未著録。『彙考』著録（一七一三頁）。

八月二十日、爲「中秋滿江紅詞」、以和季父所作、王金如・鄭九華相繼至、時予祝老母壽、觀『龍珠記』、

※『龍珠記』：闕名撰。本事不詳。佚。『提要』未著録。『彙考』著録（一六八八頁）。

※王金如：諱朝式、字金如。山陰人。『小腆紀傳補遺』巻三。

八月二十九日、…午後即抵家、時老母方觀戲、予扃小齋、閲『杜詩』十餘首、

八月三十日、老母觀戲演『千祥記』、予閉戸讀書、不及觀、

※『千祥記』：無心子撰。演〈賈鳳鳴〉事。「古本戲曲叢刊二集」收「康熙間鈔本」。『提要』未著録。『彙考』著録（一一〇一頁）。

※『遠山堂曲品』具品・『千祥』：粗曉音律、便欲拈毫。記中以賈年少父子守長沙爲艷稱、而不知以地處卑濕、恐不得活。賈方賦鵬自悲、何艷之之有。

九月初一日、…午後（楊）子常別去、閲自譽、及諸童子就試卷、是日予祀神、演『綉龍記』、

※『綉龍記』：闕名撰。本事不詳。佚。『提要』未著録。『彙考』著録（一七一六頁）。

※楊子常：諱彝、字宗彝・子常。常熟人。儒學生。『明詩綜』巻七十六。

九月初二日、…飯後小憩、出投數刺、晤王培元、赴金楚畹・余武貞酌、同席爲鄭訒菴、觀『麒麟記』、夜乘湖舫歸、

※『麒麟記』：顯聖公撰。演〈孔子〉事。「古本戲曲叢刊二集」收「萬曆間刊本」。『提要』未著録。『彙考』著録（一〇九五頁）。

※『遠山堂曲品』雜調・『麒麟』：搬盡一部『論語』、乃益其惡俗鄙俚。侮聖者非法、此眞詞壇之罪人也。

※王培元：諱毓貞、字培元。舉人。崇禎八年、流賊のため殺さる。

『明史』卷二九二。
※余武貞：諱煌、字武貞。會稽人。天啓五年進士。順治三年、入水自殺す。『明史』卷二七六。
※鄭訒菴：諱之尹、字訒菴。『崇禎忠節録』卷十三。
九月初四日、…薄暮出柯園、偕薛君亮・鄭九華・陳自譽・劉北生、及諸兄弟赴止祥兄席、席間以鼓吹爲歡、
※柯園：祁豸佳の別墅。『祁忠惠公遺集』卷八「越中園亭記五」に「柯園。吾鄉、水國也。梅市之西、諸水畢匯。予兄止祥孝廉儉於搆室、豐於取景。」とある。
十月初六日、靜坐書室、稍閲先子所草奏疏、何芝田至、飯後別去、時優人演戲、
十一月初二日、…體中寒熱交作、予不爲動、賓主酬酢猶故也、延醫張景岳至、即於舟中診視、復就座、觀『牧羊記』、及暮而歸、
※『牧羊記』（『蘇武牧羊記』）：闕名撰。演〈蘇武〉事。「古本戲曲叢刊初集」收「鈔本」。『提要』著録（卷十四）。『彙考』著録（八九頁）。
※『遠山堂曲品』能品・『牧羊』：此等詞、所謂讀之不成句、歌之則叶律者。故『南曲全譜』收其數調作式。
※張景岳：諱介賓、字惠卿、號景岳・通一子。會稽人、一作山陰人。醫者として著名。『會稽縣志』卷二十六。
十一月初四日、…予坐書室、竟日不出戸、整向日所蓄詞曲、彙而成帙、然顧誤之癖、於此已解、終不喜觀之矣、
※祁彪佳は『遠山堂曲品敍』にも「予素有顧悞之僻、見呂鬱藍『曲品』而會心焉。」と言っている。
十一月二十六日、…乃返而投林自名公祖刺、再晤錢載甫・金楚畹、薄暮偕内子歸、看優人演『畫中人記』、
※『畫中人記』：呉炳撰。演〈庾長明・鄭瓊枝〉事。「古本戲曲叢刊三集」收「崇禎間原刊本」。『提要』著録（卷十一）。『彙考』著録（一〇七四頁）。
十二月十一日、…獨出諸園、上有石如浪洗刮之、可寛數畝、與（陶）虎溪飽觀、乃就酌、觀『望雲記』、
※『望雲記』：金懷玉撰。演〈狄梁公〉事。「古本戲曲叢刊二集」收「文林閣本」。『提要』未著録。『彙考』著録（一〇五四頁）。
※『遠山堂曲品』具品・『望雲』金懷玉：演狄梁公事甚備、可以文金君他作之陋。然以言乎還淳返雅、則未也。
十二月十二日、…午後就張宗子宅、與陶虎溪同邀林自名公祖、觀『雙紅記』、
※張宗子：諱岱、字宗子・石公、號陶庵・蝶庵居士。山陰人。『小腆紀傳補遺』卷三。
※ここでの觀劇は、おそらく張岱の家樂による演出であろう。『陶庵夢憶』卷四「張氏聲伎」に「我家聲伎、前世無之、自大父於萬曆年間與范長白・鄒愚公・黄貞父・包涵所諸先生講究此道、遂破天荒爲之。」とあるように、張岱は戲班を持ち、俳優を養っていた。
十二月十三日、抵家、知許公祖已夜渡、不復至矣、所呼優人、即令其演『水滸記』、以奉老母、
※『水滸記』：許自昌撰。演〈宋江〉事。「古本戲曲叢刊初集」收「汲古閣本」。「六十種曲」所收。『提要』著録（卷十四）。『彙考』著録（九二四頁）。
※『遠山堂曲品』能品・『水滸』許自昌：記宋江事、暢所欲言、且得裁剪之法。曲雖多穉弱句、而賓白却甚當行、其場上之善曲乎。
※『水滸記』：王異撰。此本係王異改訂許氏之作。『提要』未著録。『彙考』著録（九二七頁）。
※『遠山堂曲品』能品・『水滸』王元功：此梅花主人改訂者、曲白

十改八九、穉弱亦十去八九矣。前本用犯調、有不便於歌者、今取調極穩。前本宋江有妻似噴、今並去之。惟下韻仍雜、不能爲全瑜耳。

十二月十九日、…午後於金楚畹家、同鄭訒菴・余武貞公、請郭公祖、演『千金記』、

※『千金記』：沈采撰。演〈韓信〉事。「古本戲曲叢刊初集」收「富春堂本」。「六十種曲」所收。『提要』著録（卷十三）。『彙考』著録（九九頁）。

※『遠山堂曲品』雅品殘稿・『千金』：紀楚・漢事甚豪暢、但所演皆英雄本色、閨閣處便覺寂廖。

崇禎九年丙子（一六三六）　三十五歲

公、紹興に在り。別墅寓山園を構築す。

〈林居適筆〉

◆在紹興

正月初七日、…薄暮始歸、觀童子演仙戲、

正月初十日、…午後憩於舟中、乃邀王雲岫・王雲瀛、及潘鳴岐小酌、觀『投梭記』、

※『投梭記』：徐復祚撰。演〈謝鯤・元縹風〉事。「古本戲曲叢刊三集」收「汲古閣本」。「六十種曲」所收。『提要』未著録。『彙考』著録（九〇二頁）。

正月十一日、…晚燃燈、以巵酒奉老母、觀『幽閨記』、

正月二十八日、…飯於介子齋頭、偕介子・宗子至砎園、□許公祖、觀『水滸記』、

※砎園：張岱の祖父張汝霖が天啓元年に病氣で歸郷し、龍山の麓に築いた。『瑯嬛文集』卷四「家傳」に「天啓辛酉、大父以病歸、龍阿攜兵送、盡黔界、慟哭而去。歸即築岭園於龍山之趾、嘯咏其中。」と言う。また祁彪佳の『祁忠惠公遺集』卷八「越中園亭記二」にも「砎園、張肅之先生晚年築室於龍山之旁、而開園其左。有鱸香亭臨王公池上。憑窗眺望、收拾龍山之勝殆盡。壽花堂・霞爽軒・酣漱閣、皆在水石縈廻、花木映帶處。」とある。

※介子：張萼、字介子・燕客。張岱の二叔爾葆の嗣子。

正月二十九日、…飯後至外家、陪許公祖席、觀『九錫記』、竟日雨、

※『九錫記』：闕名撰。演〈范雍〉事。佚。『提要』著録（卷三十）。『彙考』著録（一五二三頁）。

二月十八日、…時德公兄以嫂壽日設酌、午後觀優人演『鴛鴦棒記』、

※『鴛鴦棒記』：范文若撰。演〈薛季衡・錢媚珠〉事。「古本戲曲叢刊二集」收「博山堂本」。『提要』未著録。『彙考』著録（九九二頁）。

※德公兄：祁彪佳の次兄鳳佳、字德公。增廣生。

二月十九日、與何芝田至寓山、値遊客在、一茶而別、適微雨、後山色更佳、舟中作書、與毘陵蔡二守、及復王弁、午後觀『翠屏山記』、燈下校先人文集、

※『翠屏山記』：沈自晉撰。演〈『水滸傳』楊雄・石秀〉事。「古本戲曲叢刊二集」收「鈔本」。『提要』著録（卷八）。『彙考』著録（八七四頁）。

※寓山：祁彪佳の別墅。『祁忠惠公遺集』卷七「寓山注」によれば、「予家梅子眞高士里、固山陰道上也。方干一島、賀監半曲、惟予所恣取。顧獨予家旁小山、若有夙緣者、其名曰寓。…」とある。また『嘉慶重修山陰縣志』卷六に「寓園在城西南二十里寓山麓、崇禎初御史祁彪佳依山作園。」と言う。

三月初二日、…予操舟邀王雲岫・王雲瀛、小酌於舟之臺上、時天氣初霽、水光與山色相暎、不覺披襟叫絶、劉北生適至、與觀社戲、

三月十二日、…即與徳公・止祥兩兄・翁艾弟、赴王雲岫・王雲瀛、及潘鳴岐席、觀『西樓記』、

※翁艾弟：祁彪佳の五弟象佳、字翁艾。監生。

三月十六日、…與翁艾弟至白洋、赴朱仲含昆仲招、飲後步海塘、遂遊朱士服之碧園、再舉酌、觀『花筵賺記』、

※白洋：紹興の西北にある白洋鎮。「浙江潮」が見られることで有名。『自鑒録』（崇禎十一年）八月十八日の記事に「早抵白洋朱宅、…已操小艇看潮、潮已過矣、…」とある。また張岱の『陶庵夢憶』巻三「白洋潮」にも「庚辰八月、弔朱恆岳少師、至白洋、陳章侯・祁世培同席。海塘上呼看潮、余遄往、章侯・世培踵至、立塘上。…」とある。

※碧園：『祁忠惠公遺集』巻八「越中園亭記六」に「碧園、白洋朱氏、皆濱海而居。此爲朱士服所搆。在海塘之外。」と言う。

※陳章侯：諱洪綬、字章侯、號老蓮。諸暨人。『小腆紀傳』巻五八。

四月初三日、…飯後赴錢麟武・錢徳輿招、登小隱山、觀『五桂記』、子夜徳輿復出家伶侑觴、晩宿於舟中、

※『五桂記』：闕名撰。演〈竇禹鈞〉事。佚。『提要』未著録。『彙考』著録（一五四一頁）。

※『遠山堂曲品』具品・『五桂』：搬出滿腔書袋、即一「腐」字不足盡之。内有自撰曲名、可笑。

五月初七日、…午後里中舉戲、觀者如狂、予惟靜坐、或偃息已耳、

五月十三日、…午後祀關神演戲、

九月十一日、邀朱仲含・叔起同陳章侯來、舉酌、演『拜月記』、席半出遊寓山、及暮乃別、

十月初三日、…時式弓舅有遺孤、搏九舅繼之爲嗣、舉酌延族、予預焉、觀『白兎記』、舟中作『園記』、閲『詩經』、

※『白兎記』（『劉智遠白兎記』）：謝天瑞撰。演〈劉智遠〉事。「古本戲曲叢刊初集」收「富春堂本」。「六十種曲」・「暖紅室彙刻傳奇」所收。『提要』著録（巻四）。『彙考』著録（九五八頁）。

※『園記』：『祁忠惠公遺集』巻八「越中園亭記」のことか。

十一月初一日、爲先人諱日、文載弟舉戲、不敢觀也、

※文載弟：祁熊佳、字文載。叔父承勳の次子、多佳の弟。崇禎十三年進士。『明詩綜』巻六十九。

十一月初三日、…午間文載弟舉酌觀戲、

十一月二十二日、…（陶）石梁舉酌、方半棹舟以遊、時有女伴攜歌姬至、邀演數劇、

※陶石梁：諱奭齡、字石梁。會稽人。望齡、字周望、號石簣の弟。

十一月二十八日、招族中兄弟・姪輩六人酣飲於寓山、薄暮始散、家中演戲奉老母、

十二月初七日、…是日老母謝神演戲、予及暮戲罷乃歸、

崇禎十年丁丑（一六三七）　三十六歲

公、紹興に在り。別墅寓山園について『寓山注』を著す。

〈山居拙録〉

◆在紹興

正月十一日、風雨、至寓山、即歸、觀『洛陽名園記』、晩演戲奉老母觴、

二月二十一日、…驟風雨、閲『楞嚴』於讀易居、雨甚、放舟歸、觀戲劇、

※讀易居：祁彪佳の別墅にある書室。『祁忠惠公遺集』巻七「寓山注」に「讀易居、…居臨曲沼之東偏、與四負堂相左右。…」と

言う。

二月二十三日、因家演戯劇、恐羣兒觀之妨讀書工、乃同鄒汝功・沈爾肅、攜羣兒至山讀書、

二月二十四日、…午後閲『楞嚴』、歸値徳（公）兄、舉酌、邀諸兄、同席者尚有劉北生・沈用期・王子開兄弟、觀『鶼釵記』、

※王子開：諱觀光、字子開。晉江人。天啓五年進士。『小腆紀傳』巻五十七。

四月二十日、奉老母觀戯於寓山、…午後觀『荷花蕩記』、時金大來・劉北生・鄒汝功・鄭九華皆至、舉小酌而別、晚値雨、

※『荷花蕩記』（『荷花塘』？）：馬佶人撰。演〈李素・傅蓮貞〉事。「古本戯曲叢刊二集」収「明末刊本」。「暖紅室彙刻傳奇」所收。『提要』未著録。『彙考』著録（一〇三一頁）。

四月二十一日、…午後邀邢淇瞻・倪三蘭・倪鴻寶三年兄至舉酌、已散步園中、始知宋吉暉・張澹居倒轉信、座中深爲扼腕、與客觀『鶼釵記』、

四月二十三日、早至孟家峰、訪謝寤雲、啜茗清談於籬落外、指點山水、送予至舟、乃別、抵曹山赴陶宗臣、邀陶石梁先生出陪、頃之倪鴻寶至、偕遊吼山、遲姜光揚最後至、舉酌、觀『雙紅記』、

※姜光揚：諱一洪、字開初、號光陽。餘姚人。萬曆四十四年進士。『小腆紀傳』巻二十六。

五月二十四日、發棹、舟中作『越中名園記』、抵偏門、齊企之來晤、與之訪張介子、頃之張宗子來促、遂赴其酌、「楓社」諸友已集於不二齋、宗子新搆雲林秘閣、諸友多晤談於此、倪鴻寶最後至、飯後聽宗子彈琴、優人皷吹佐之、及暮觀演『紅絲記』、席散宿舟、

※『紅絲記』：許三階撰。演〈郭元振〉事。佚。『提要』未著録。『彙考』著録（九五一頁）。

※『遠山堂曲品』能品・『紅絲』許三階：郭代公之生平、『四義』傳之鄙而雜。此以採絲爲婚姻之始、驅虜爲功名之終、結搆殊恰。詞有新創之『五色絲』『桃葉歌』『鳳樓十二重』等調。在許君工於音律、必有當於抗墜掩抑・頂叠關轉之法。

※『越中名園記』：『祁忠惠公遺集』巻八「越中園亭記」を指す。

※不二齋、雲林秘閣：張岱の居第にある樓閣。『祁忠惠公遺集』巻八「越中園亭記二」の「不二齋」の條に「張文恭於居第旁有樓三楹爲講學地。其家曾孫宗子更新之、建雲林秘閣於後。」と言う。また張岱自身も『陶庵夢憶』巻二「不二齋」において言及している。

八月十六日、…午間演戯祝老母壽、

八月二十二日、諸兄弟演戯奉老母壽、予仍半臥書室、

八月二十六日、…良久林自名公祖招飲岭園、與朱茂如同赴之、觀『玉麟記』、

※『玉麟記』：葉憲祖撰。演〈三蘇〉事。佚。『提要』未著録。『彙考』著録（八六六頁）。

八月二十九日、…及午台司理李北菴至、迎於近村、舉酌演『浣紗記』、

※『浣紗記』：梁辰魚撰。演〈范蠡・西施〉事。「古本戯曲叢刊初集」収「明刊本」。「六十種曲」所收。『提要』未著録。『彙考』著録（八一九頁）。

九月初九日、…少頃朱茂如至、茶罷小飯、坐談書室、先觀演戯數齣、即出於堰下、邀林自名公祖至、舉酌於世經堂、演『驚鴻記』、

※『驚鴻記』：呉世美撰。演〈梅妃〉事。「古本戯曲叢刊二集」収「世徳堂本」。『提要』著録（巻十）。『彙考』著録（九一〇頁）。

九月十八日、…更舉酌於四負堂、觀『千金記』、已小坐浮景臺、觀花火、主客之情甚暢、子夜送之至予村、始分手、

※四負堂：祁彪佳の別墅にある堂宇。『祁忠惠公遺集』巻七「寓山注」の「四負堂」の條に「豐莊内有堂三楹、臨流翼峙、主人爲

蠶穀之地。而間亦酌犀兕以觴客者也。時金如王先生、予所師事者。因予卜築之癖、責之以書曰『頃見尊園、蓋有四負。…』。」と命名の由來を述べる。

※浮景臺：祁彪佳の別墅にある水樓。同上「寓山注」の「浮影臺」の條に「從踏香堤望之、迥然有臺。蓋在水中央也。…『水經注』所云『迴峙相望、孤影若浮、似爲寫照矣。』」とある。

十月二十三日、…飯於舟中、出謁報葉君、投數刺、晤袁則學、知王金如已至予家矣、赴徐檀燕席、同席爲潘郢白・余心涵・錢陽明・胡青蓮・姚兢初・姜玉洲・陳襄範・倪鴻寶・陶書倉・謝岵雲、觀『四元記』、

※『四元記』：呂天成撰。演〈宋再玉・王方雲〉事。佚。『提要』未著録。『彙考』著録（八八六頁）。

※徐檀燕：諱如翰、字伯鷹・檀燕。浙江上虞人。萬曆二十九年進士。『明史』巻二一八。

十一月初二日、至寓山、沈表叔過訪、午後田兄有成亦自燕京來晤、復至寓山、觀『雙飛神記』、王雲岫至、與之小酌、

※『雙飛神記』：闕名撰。本事不詳。佚。『提要』未著録。『彙考』著録（一七一一頁）。

十一月初三日、…午後夏孔林來晤、別去、觀『緑袍記』、

※『緑袍記』：闕名撰。演〈劉湛・鳳娘〉事。佚。『提要』未著録。『彙考』著録（一六八六頁）。

崇禎十一年戊寅（一六三八）　三十七歳

公、紹興に在り。

〈自鑒録〉

◆在紹興

正月初十日、霽、與何芝田・止祥兄談于紫芝軒、午間與諸兄弟舉春觴奉老母、又偕何芝田遊寓山、西風甚厲、歸看演『萬壽記』、

※『萬壽記』：闕名撰。本事不詳。佚。『提要』未著録。『彙考』著録（一六六五頁）。

正月二十二日、…午間至王雲岫家、隣友以歲事舉公酌、凡預席者二十人、非隣而至者、何芝田・呉雲甫・趙伯章、會外至者、齊企之・劉北生、觀小優演『金雀記』、

※『金雀記』：無心子撰。演〈潘岳〉擲果事。「六十種曲」所收。『提要』未著録。『彙考』著録（一一〇二頁）。

※『遠山堂曲品』能品・『金雀』：輕倩之詞、利於搬演、不耐咀嚼。「安仁擲果」一段、正可想見當年。

正月二十六日、…午後觀優人演『黄孝子記』、與蔣・錢・張三兄小酌、

正月二十七日、汪彦旻自武林過訪、偕與蔣安然至寓山、遊女甚盛、…午間邀彦旻、及蔣・齊二兄小酌、彦旻別、觀優人演『連環記』、

正月二十九日、…午後呉雲甫舉酌、就予家、演戲觀『彩樓記』、

二月初十日、出吊潘鳴岐、歸而沈氏娣丈過訪、少頃與徳公兄所邀周因仲・慶叔昆仲、及其乃郎至、同之遊寓山、周戩伯續至、歸舉酌、演『石榴花記』、子夜方別、

二月十一日、…是晩村中演戲、

二月十二日、王見可・呉昌伯自武林過訪、…日暮王・呉兩兄別去、留張爾唯宿、同看戲數齣、共蔣（安然）・陳（長耀）兩兄共酌于海棠花下、

※王見可：諱恆、字見可。松江人。

※呉昌伯：諱昌、字昌伯。華亭人。『明畫録』巻四。

二月十四日、…晩拉諸友、看戲數齣、

二月十九日、…抵舟、適得望扁舟、題各作「如夢令」詩餘、予與蔣安然再作「錦纏道」一曲、至謝墅、遊胡氏漉月亭、陶氏招鶴山房、從謝墅抵南池、與諸友散步、即景所見、各拈一題、予得「嫩柳鶯聲賦」五律、不愜意、適市上演戲、觀少頃就寢、

※漉月亭：『祁忠惠公遺集』巻八「越中園亭記三」に「漉月亭、城南謝墅村、在爐峯・天柱之間。向龔氏□其地建漉月亭。近爲胡璞完先生別業。」と言う。

※招鶴山房：『祁忠惠公遺集』巻八「越中園亭記三」に「在謝墅山房。僅數楹、中以奉佛。主人陶文學手爲條約。」と言う。

※嫩柳鶯聲賦：祁理孫・班孫編輯『遠山堂詩集』（『祁彪佳文稿』所收鈔本）「五言律」の「清明前四日、偕友人泛舟九里、登爐峯。晚泊南池間歩、即景所見、各賦一題、限韻禁體、刻燭成詩」詩の第一首「賦得嫩柳鶯聲」。

四月二十二日、…洎暮陪（呉）雲甫戲酌、觀『香囊記』、

四月二十三日、…飯後歸、邀雲甫橋梓飲、觀『紅絲記』、

五月十一日、…午後演戲奉關神、王雲岫來觀、陳長耀亦至、

七月初七日、微雨、三儀師來晤、與鄭九華・德公兄出柯園、邀止祥兄・金大來、遊寓山、歸又雨、演戲奉老母、觀『望湖亭記』、王雲岫・陳長耀・蔣安然先後至、演戲畢、舉小酌、循乞巧故事、

七月初八日、…老母攜諸媳亦至、觀戲於四負堂、本原師來、留之齋、午後小憩、再觀演『繡襦記』、

八月十四日、秋分、舉祭于宗祠、…再至寓山、燃燈月下、月色甚皎、小酌于妙賞亭、聽介子所攜優人鼓吹、

八月十五日、…再寓山、偕諸張兄至柯園、止祥兄舉酌、以畫舫載鼓吹、至西澤看戲、

八月十六日、…出柯園、偕諸張兄至雲岫宅、舉酌、至社廟看戲、再觀月于宅外、月色如十四夜、復看戲、乃與諸張兄作別、

八月十九日、爲老母誕辰、與兄弟拜祝已、王摶九舅・何芝田、及諸孫俱在、舉蔬酌、午後演戲、予與陳長耀・蔣安然出堰下、觀女戲、晚小酌于水閣、

八月二十日、…歸舟、陳長耀別去、同蔣安然歸、觀優人演『孝悌記』數齣、

※『孝悌記』：闕名撰。本事不詳。佚。『提要』未著録。『彙考』著録（一五七八頁）。

九月二十四日、…午後爲老母演戲奉神、觀『尋親記』、

十月十三日、…薄暮赴王雲岫席、兄弟俱預、觀『牧羊記』、陳長耀後來、

十月二十六日、同陳長耀入城、餞商諶軒、至王遂東家、與徐檀燕・徐善伯・倪鴻寶・余武貞・姚兢初師公、請鹽臺梁公祖、觀『浣紗記』、

※王遂東：諱思任、字季重、號遂東。山陰人。萬暦二十三年進士。『明詩綜』巻五十八。

十一月十一日、作字迎陳長耀・潘益儒叔姪過訪、商家姑來、舉酌奉老母、前是予爲老母壽、以偶病遲之至今、午後作『摩尼珠戲』奉關神、

※『摩尼珠戲』（『牟尼合』又名『牟尼珠』）：阮大鋮撰。演〈蕭思遠〉事。「古本戲曲叢刊二集」收「明刊本」。『提要』著録（巻十一）。『彙考』著録（一〇六九頁）。

十一月十六日、金順高・陳長耀入城、與徳公兄・奕遠姪至寓山、延王峩雲・王士美至、遊園罷、舉酌于四負堂、老母亦出看戲、是日大風有寒色、

※奕遠姪：祁鴻孫、字奕遠。二兄鳳佳の嗣子。『明詩綜』巻七十七。

※王士美：諱業洵、字士美。餘姚人。劉宗周『劉氏全書』「蕺山弟子籍」。

十一月二十八日、…赴程鍾律席、觀『銀牌記』、

※『銀牌記』：闕名撰。演〈韓弘道〉事。佚。『提要』著録（卷四十四）。『彙考』著録（一六七五頁）。

十二月十五日、…乃赴倪鴻寶席、同席爲王遂東・姜玉丹・謝岵雲・余武貞・錢德輿、觀『霞箋記』、歸途遇雪、

※『霞箋記』：闕名撰。演〈李彦直・張麗容〉事。「六十種曲」・「暖紅室彙刻傳奇」所收。『提要』未著録。『彙考』著録（一六九七頁）。

※『遠山堂曲品』雅品殘稿・『霞牋』：傳青樓者、唯此委婉得趣、至『西樓』更大暢、此外無餘地容人站脚矣。

十二月十七日、…午後冒雪至山、小酌于遠閣、待市花不至、乃歸、族人有借予家堂宇演戲者、觀『鞭琴記』、

※『鞭琴記』：闕名撰。本事不詳。佚。『提要』未著録。『彙考』著録（一七〇〇頁）。

※遠閣：祁彪佳の別墅にある樓閣。『祁忠惠公遺集』卷七「寓山注」の「遠閣」の條によれば、「閣以遠名、非第因目力之所極也。」と言う。

十二月二十一日、霽、於宗祠給贍族銀、老母演戲謝神、督工之暇、觀『白梅記』、

崇禎十二年己卯（一六三九）　三十八歲

公、紹興に在り。

〈棄録〉

◆在紹興

正月十二日、…老母自山中抵村觀戲、予先至山宿、

正月二十三日、…至晚、以皆園送之、抵郡城、予出赴潘鳴岐歲會、王雲岫諸君皆在、觀『孝悌記』、

正月二十四日、…午後演『雙忠記』奉神、

※『雙忠記』：姚茂良撰。演〈張巡・許遠〉事。「古本戲曲叢刊初集」收「富春堂本」。「六十種曲」所收。『提要』未著録。『彙考』著録（九七頁）。

※『遠山堂曲品』能品・『雙忠』姚茂良：傳張・許事、詞意凱切、可以揭忠義肝腸。但睢陽已陷之後、必傳大創安・史、收復兩京、方爲二公吐氣。乃以陰魂聚首、結局殊覺黯然。張之母・妻、亦何必同遊地下也。且後半詞亦不稱。

正月二十五日、…以一觴與諸兄弟奉老母、午後演『摩尼珠記』奉老母觀之、

正月二十六日、…歸得錢牧齋書借書、以遵父命爲辭、即復之、觀『鸞釵記』、

※『鸞釵記』：闕名撰。演〈劉翰卿〉事。梨園傳鈔散齣本存。『提要』著録（卷十七）。『彙考』著録（一三九頁）。

※『遠山堂曲品』能品・『鸞釵』：王元美評『幽閨』有三短、終本不令人墮淚、其一也。若此記、點點是淚矣。蓋繇作手輕熟、故轉折不費力、而科諢無不妙合。傳爲呉下一優人所作。

※錢牧齋：諱謙益、字受之、號牧齋。常熟人。萬曆二十三年進士。『清史稿』卷四八四。

※以遵父命爲辭：祁承㸁『澹生堂藏書約』に「親友借觀者、有副本則以應、無副本則以辭。正本不得出密園外。」とあるのに從い、祁彪佳は錢謙益の借書の索めに應じていない。日記の同年二月十八日の條にも「先是錢牧齋向予借書、予以先人之命不令借人、但可録以相贈、」とある。ただし同年五月九日の條に「作書致錢牧齋、以抄書十種應其所索、」とあることから、後に鈔本を作って送ったようである。

正月二十八日、…歸舟、倪鴻寶來晤、再出訪一二客、即與鴻寶赴王我雲席、觀『紅葉記』、

※『紅葉記』：祝長生撰。演〈吳子華・許春華〉事。明清戲曲散齣選集殘存佚曲。『提要』未著録。『彙考』著録（八九四頁）。

※『遠山堂曲品』能品・『紅葉』祝長生：此記守韻甚嚴、而葩藻之詞、如三峽波濤、隨地委折。但于祐拾葉在未第時、無一種軒舉之氣、所以終遜『題紅』一籌。

二月二十九日、…午後與内子入城、至驛前觀戲、即宿舟中、

三月初二日、…是日諸匠作演戲奉神、

三月二十五日、…午後出州山、吊吳愼旃、晤（吳）期生、訪蔣・潘諸兄、仍至寓山、簡木料、歸閲女優演戲、

五月十三日、雨、王友嘉佐來晤、演戲奉關神、

五月三十日、…是晚柯村又演『目連戲』、竟夜不能寐、

※『目連戲』：鄭之珍撰。演〈目連〉事。「古本戲曲叢刊初集」收「高石山房刊本」。『提要』著録（卷三十五）。『彙考』著録（一一一頁）。

※柯村：柯橋驛のことか。『山陰縣志』卷六に「柯橋驛在縣西二十五里。」とある。

七月初二日、…午後設戲奉神、演『金印記』、

※『金印記』：蘇復之撰。演〈蘇秦〉事。「古本戲曲叢刊初集」收「萬曆間刊本」。「暖紅室彙刻傳奇」所收。『提要』著録（卷五）。『彙考』著録（九三頁）。

七月初三日、舉酌設戲奉老母、

八月初十日、…午後延茅衷初及茅宅、五六客舉酌、演戲、

八月十五日、…晚偕鄭九華・陳長耀・劉迅侯、赴王雲岫招舉酌、無不宜臺上、再以予舟玩月、至丁巷廟、觀戲一齣、

八月十九日、賀老母壽、沈堯兪場事畢來晤、有鈕君應選、爲先君門生、亦來賀壽、王弓冶舅、及雅夷表兄、亦以賀壽至、方舉蔬酌、値叔父有疾、即候之、晚設戲、

九月十七日、無量師過談、定水陸法筵之日、出寓山、即歸、演戲奉老母、觀『荆釵記』、

※『荆釵記』：柯丹邱撰。演〈王十朋・錢玉蓮〉事。「古本戲曲叢刊初集」收「明初刊本」。「六十種曲」・「暖紅室彙刻傳奇」所收。『提要』著録（卷四）。『彙考』著録（五頁）。

十月十一日、茅和宇先過訪、邀外舅、及表弟・諸姊丈、暨劉平林表兄陸續至、先飯於徳公兄、後舉酌、演『繡襦記』、

十月十四日、入城吊徐檀燕、飯於外父家、與商繩菴步行、至廣甯橋登舟、小憩、赴錢徳輿席、同席爲王遂東・張芝亭・王我雲・姜玉舟・倪鴻寶、徳輿盡出家樂、合作『浣紗』之「採蓮」劇而別、

※「採蓮」劇：『浣紗記』第三十齣「採蓮」。

十月十八日、雨、王雅夷至、先飯於東樓、及王爾吉舅來、乃舉酌觀『雙紅記』、

※王爾吉：諱兆修、字爾吉。會稽人。劉宗周『劉子全書』「蕺山弟子籍」。

十月十九日、冒風出寓山、即歸、老母先令優人演戲、午後邀王雲岫・潘敬渠・潘鳴岐舉酌、觀『釵釧記』、

※『釵釧記』：月榭主人撰。演〈皇甫吟・史碧桃〉事。「古本戲曲叢刊二集」收「康熙間鈔本」。『提要』著録（卷十四）。『彙考』著録（一一〇七頁）。

※『遠山堂曲品』能品・『釵釧』月榭主人：皇甫嵩受欺於韓時忠、身幾不免、可爲密事告友之戒。獨惜史女碧桃、計贈完姻、無愧女俠。而幾爲奸鬟所窘、倘非遇張侍御、已作河伯婦矣、可傷哉。此曲詞調朗徹、儘有本色、是熟於科筮排場者。舊有「賊殺侍婢」一段、今稍易之矣。

十月二十日、邀止祥兄・奕遠姪出寓山、老母亦仝諸媳至、日旰時、王
　我雲・倪鴻寶・王士美・張宗子・介子・毅孺・董天孫・劉北生、仝
　舟而來、且偕松陵周生期來、登臨罷、舉五簋於四負堂、遵鴻寶約也、
　演雜戲、盡優人之所長、
十二月初二日、…午後延族中爲構造、舉賀者設酌、申謝凡七十餘人、
　演戲、盡歡而散、

崇禎十三年庚辰（一六四〇）　三十九歲

公、紹興に在り。
三月四日、母王太淑人沒。七十七歲。

〈感慕録〉

◆在紹興
正月十一日、霽、與内子・兩兒・諸女出寓山設酌、延呉期生・翁艾弟
　陪之、老母同商家姑出觀戲、予宿于咸暢閣、
正月十六日、大雪、設春酒奉老母、諸兄弟皆預、午後演戲、趙應侯・
　張道岸令郎來、觀戲、留茶于内書房、
正月十九日、…優人晚至、演『綵樓記』、四鼓乃散、
正月二十日、…諸兄弟設戲奉老母、予共觀『幽閨記』、
正月二十九日、…作書與徐心韋、求其寄諸書函、燈下閲戲數齣、餘暇
　閲『十六國春秋』、
正月三十日、…午後諸僕演戲觀之、
閏正月初四日、…午後呉期生見招、同翁艾弟赴之、便道訪呉雲甫・呉
　期生令弟九兄出陪、觀『千祥記』、
閏正月十九日、…季超兄登樓坐話、暇整書、聞道臺嚴禁優伶甚爲風俗
　之喜、

※季超兄：祁彪佳の三兄祁駿佳、字季超。『明詩綜』巻七十六。
二月十一日、熟寐解數日應接之勞、午後整『曲品』『劇品』、付繩之謄
　寫、

崇禎十四年辛巳（一六四一）　四十歲

［時事］河南大旱。
公、紹興に在り。饑民の賑恤につとめ、『救荒小議』などを草す。
また崇禎十六年にかけて古今の「救荒」の書を輯める。（『祁忠惠公遺
書』巻五に「救荒全書小序」を收める。）

〈小球録〉

◆在紹興
三月十四日、微雨、令兒輩充歌童、同諸先生演習於淡生堂、
三月十五日、…予與十四兄・兩保長、及甲長咸集、講「孝順」「尊敬」
　二章、歌童相繼聲歌、
六月十一日、…予同（王）素中、及諸友抵家、素中閲所藏詞曲、借數
　種以去、

崇禎十五年壬午（一六四二）　四十一歲

九月、河南道事に任ぜらる。
十二月四日、北京に抵る。

〈壬午日暦〉

◆在紹興
正月三十日、…予與隣人定地界、且以戲愿卜之神、

二月初五日、内子曾於病中許戲愿、予以道臺之禁、乃就外父家演之、
　令二兒送神、
二月初九日、…午後同孫鐵骸・方無隅・陳長耀赴、酌於王雲岫、方舉
杯隱閣、齊企之至、聽鐵骸歌三曲、乃歸、又歌於浮影(ママ)臺、夜大風、
二月十三日、…午後出訪呉期生・張菩岸、晩與諸友共酌梅坡、且于咸
暢閣、聽鐵骸在太古亭歌曲、
三月三十日、…攜眉兒拜張燕客、即同張燕客至外父、觀『西梅記』、
　※『西梅記』：闕名撰。本事不詳。佚。『提要』未著録。『彙考』未
　著録。
四月十四日、…歸値翁艾弟・奕遠姪、聽歌於浮景臺、
四月十八日、呉期生至、旋會於彌陀寺、候余武貞、小飯舟中、迎鄭鴻
　逵公祖、設席寓園、以其方有厲禁、不用優人、即宴品亦從極儉、
四月十九日、王雲岫過訪、呼歌者共聽於瑟瞵、倪鴻寶至、與之至柯園、
四月二十三日、…(李)灌谿出酒小飲、聽友人歌北曲、
　※李灌谿：諱模。「棲北冗言」正月初八日既出。
九月初九日、…午後同方・陳兩兄至彤山、登松亭、雲岫與主人共出饌
　小飲、聽歌於隱閣、及呼丈處、
◆在武林
十月初八日、…邀(姚)玄叔・(陳)長耀、及商詠熙於鄒氏、觀女子
　吹簫、
十月初十日、…會孫鐵骸・商・陳・姚諸兄、再聽鄒氏女子唱曲、
十月十六日、道瞻姪以應武試至、魏行之來、與徳公兄茶話於越閣、内
子邀章羽仙泛舟、聽其絲索之調、孫鐵骸來、共之自湖心亭移舟一橋、
欲向烏石峯看紅葉、以汪元祥邀、乃自陸宣公祠與内子分舟至段橋、
赴元祥之酌、仝席爲呉弘文、及閔趙任・胡羅石諸友、席半聽胡・任
二友北調、聽石友南曲、
　※湖心亭：西湖にある小島の亭。張岱の『陶庵夢憶』巻三に「湖
心亭看雪」なる一文が、また『西湖夢尋』巻三に「湖心亭小記」
　がある。
十月十七日、…劉雪濤公祖見招、赴酌於湖舫、觀『紅梨花記』、晩與
諸友步月問水亭、是日買歌者秦青、
　※『紅梨花記』(『梨花記』)：王元壽撰。演〈謝金蓮〉事。「古本戲
　曲叢刊初集」收「楊居寀刊本」。「六十種曲」所收。『提要』未著
　録。『彙考』著録(九四〇頁)。
　※『遠山堂曲品』能品・『梨花』王元壽：『紅梨花傳奇』有兩種、
　皆本之元人『三錯認』劇。此記結構稍幻、而三婆説鬼一段、情趣
　少減。惟後之再遇金蓮、覺有無限波瀾。
　※劉雪濤：諱夢謙、字雪濤。河南羅山人。崇禎七年進士。『崇禎
　忠節録』巻十七。

崇禎十六年癸未(一六四三)　四十二歳
公、八月十七日、北京を發す。十月十三日、家に抵る。

〈癸未日暦〉
◆在北京
八月初一日、…晩(祁)康樂來、與止祥共酌、聽其所攜歌兒唱曲、
◆在維揚
九月二十八日、…移舟僻處避客、以肩輿至張永年家、閲閨秀六人、永
　年舉酌、觀其家優演數劇、
九月二十九日、…永年邀酌、觀『療妬羹』、即小青事、但以死爲生耳、
　※『療妬羹』：呉炳撰。演〈喬小青〉事。「古本戲曲叢刊三集」收
　「兩衡堂本」。『提要』未著録。『彙考』著録(一〇七五頁)。

◆在呉中

十月初五日、…因日將暮、不及遊天池、從謝賓嶺而歸、及舟則李子木張宴待矣、舉酌觀『一捧雪記』、

※『一捧雪記』：李玉撰。演〈嚴世蕃〉事。「古本戲曲叢刊三集」收「崇禎間刊本」。『提要』著録（卷十九）。『彙考』著録（一一四五頁）。

◆在紹興

十月三十日、…薄暮邀王雲岫來、爲定松間一室之址、舉酌咸暢閣、聽秦青歌、

十二月初一日、…晚與諸友乘醉步行過渡、看戲於梅源橋、

崇禎十七年甲申（一六四四）　四十三歲

〔時事〕三月十九日、李自成、北京を侵略し、崇禎帝自縊す。

五月、公、蘇松安撫使に任ぜらる。鎮江府京口に駐し、軍糧を集めて緩急に備える。

『明史』巻二七五「祁彪佳傳」に言う。「北都變聞、謁福王於南京。王監國、或請登極。彪佳請發喪、服滿議其儀、從之。…遷大理寺丞、旋擢右僉都御史、巡撫江南。」

祁熊佳撰『行實』に言う。「六月、陞大理寺寺丞、轉都察院右僉都御史、巡撫蘇・松等處。不數月、又進階右副都御史。」

『明季南略』巻一「五月甲乙紀」に言う。「勅御史祁彪佳等分行安撫。」

『南明野史』巻上「安宗皇帝紀」に言う。「初、祁彪佳撫呉、裕軍儲八萬、以二萬充（史）可法軍餉、而貯六萬於京口庫中。」

十一月十三日、蘇松安撫使の任を辭す。馬士英・阮大鋮等の專横に絶望してのことであった。

『明季南略』巻二「東陽許都餘復亂」に言う。「…大鋮等併切齒彪佳、因而御史張孫振論劾祁彪佳貪奸、且定策有異議、詞連呉甡・鄭三俊・劉宗周等。彪佳因罷去。史載孫振追劾彪佳在十月三十日、而彪佳之罷則十一月十三日也。」また同巻二「十一月甲乙總略」に言う。「十三丁酉、右僉都郭維經懇辭職、内旨責其欺卸。應天府祁彪佳罷。」

〈甲申日暦〉

◆在紹興

正月十二日、何芝田以賀歲至、邀王雲岫來、候張介子、偕其令郎、及汪斗潭・姜繹受・謝允中舉酌四負堂、懸燈曲廊、繁星・炤水諸友奕罷、仍演戲爲樂、

正月十三日、…歸而呉玄素之令郎亦至、士女遊者駢集、舉酌四負堂、觀止祥兄小優演戲、諸友亦演數齣、

正月十五日、…偕班兒抵家、拜先像、至山、有村中人來、演雜劇爲樂、翁艾弟、及諸妯娌皆出觀燈、

正月二十五日、…午後延王雲岫・潘鳴岐・潘完甯小酌、錢克一同翁艾弟亦與焉、清唱罷、令止祥兄之小優演戲、乃別、

二月二十四日、奉關神、及金龍神、還戲愿、演『鸞釵』『繡襦』二記、王雲岫・徐伯調・金大來皆來觀、

※徐伯調：諱緘、字伯調。山陰人。『國朝耆獻類徵』巻四一三。

二月二十五日、託方無隅卸屋於周家橋、演『連環』『浣紗』二記、奉關聖與金龍神、

三月初五日、…午後潘鳴岐・王雲岫・潘完甯・潘益儒・潘宗魏共舉五簋之酌於四負堂、與席者張軼凡・陳長耀・戴遠明・方無隅・翁艾弟二兒、邀錢克一・金雲生・李慰蒼、以絃索歌曲侑之、又侑錢環中女樂四人、及晚復向西澤、呼女優四人、演戲數折、極歡而罷、

三月二十九日、…予以西北之事決裂至此、君父之憂・臣子誼豈能安、乃盡撤戲唱、止數簋坐談、他席盡辭之、

弘光元年乙酉（清・順治二年）（一六四五）　四十四歳

［時事］五月、南京陥落す。六月八日、魯王、監國となる。

公、紹興に在り。

六月、清の貝勒の降伏勸告を却く。

張岱『石匱書後集』巻三十六「祁彪佳列傳」に言う。「六月皇太后至浙、潞王監國。…而北兵奄至、潞王出降、彪佳仍入雲門。貝勒至武林、以書幣聘彪佳。遂紿夫人曰『此非辭命所能却、必身至武林、固辭以疾、或得歸耳。』…」

閏六月六日、公、池中に坐して死す。

朱彝尊『清志居詩話』巻二十「祁彪佳」の條に言う。「乙酉閏月六日、坐園中、…是夜兄子鴻孫侍側、夜分不寤、公第曰『君子之愛人也以德。』逮鴻孫倦隱几、歩至放生碣下投水、昧旦猶整巾帶立水中。子理孫・班孫葬之園旁、舍池館爲寺、塑公像于堂、至今存焉。」『明史』巻二七五「祁彪佳傳」に言う。「五月、南都失守。六月、杭州繼失、彪佳即絶粒。至閏六月四日（ママ）、紿家人先寢、端坐池中而死、年四十有四。唐王贈少保・兵部尚書、謚忠敏。」

〈乙酉日暦〉

◆在紹興

正月十九日、自後村廟至梅墅、謁土穀神、爲内子許酬戲筵、又至古彌陀寺拜佛時、妯娌爲内子誦『蓮經』也、

三月二十六日、陰、至暮雨、内子至山、午後邀張介子、偕朱純宇・陸六皆・姜繹受來、共飲於瓶隱、介子極讚規制之妙、諸友歌於試鶯館、乃歸家、

三月二十七日、…歸與張介子、及諸友午飯罷、潘楚張設酌、託蔣安然治饌、諸友如程爾瞻・張軼凡・王雲岫皆至、聽絃索數調、朱純宇又唱南曲、極懽而散、

四月十三日、…午後至寓山、共諸友談于新移之選勝亭、丁玉衡來償逋、歸看優人演『永團圓劇』、

※『永團圓劇』：李玉撰。演〈蔡文英〉事。「古本戲曲叢刊三集」收「崇禎間刊本」。『提要』著録（巻十九）。『彙考』著録（一一四六頁）。

※選勝亭：祁彪佳の別墅にある亭。『祁忠惠公遺集』巻七「寓山注」の「選勝亭」の條に「惟是登亭徊望、每見霞峯隱日、平野盪雲、解意禽魚、暢情林木。亭不自爲勝、而合諸景以爲勝、不必勝之盡在於亭。乃以見亭之所以爲勝也乎。」と言う。

四月十四日、…予還戲愿、王子嶼・子樹昆仲・王玄趾舅・張季芳皆來觀、午後又還戲愿、奕遠姪以糾貲設酌、優人演『繡佛閣劇』、不能終、又演『永團圓劇』、

※『繡佛閣劇』：闕名撰。本事不詳。佚。『提要』未著録。『彙考』著録（一七一六頁）。

※王子嶼：諱紹美、字子嶼。會稽人。劉宗周『劉子全書』「蕺山弟子籍」。

※（王）子樹：諱紹蘭、字子樹。會稽人。劉宗周『劉子全書』「蕺山弟子籍」。

※王玄趾：諱毓耆、字玄趾。會稽人。諸生。劉宗周の弟子。弘光元年、師に先立って自殺す。『明史』巻二五五。

四月二十日、雨、予家還戲愿、觀『衣珠記』、聞南都以左帥退兵解嚴、閏中林聖楨・鄭季公來謁、午後與遊寓山、仍歸家觀『繡佛閣記』、

※左帥：左良玉、字崑山。この年五月初め、九江に憤死する。

『明史』巻二七三。

六月初一日、…薄暮抵寓山、知止祥兄已從南都避難歸、亟至舊宅看之、止祥兄尚有歌者攜歸、時文載弟留酌、遂欲演戲、予力阻而罷、

※張岱『陶庵夢憶』巻四「祁止祥癖」に「…止祥精音律、咬釘嚼鐵、一字百磨、口口親授、阿寶輩皆能曲通主意。乙酉南都失守、止祥奔歸、遇土賊、刀劍加頸、性命可傾、至寶是寶。」とあるように、祁豸佳は孌童の阿寶を常に伴い、妻子を顧みることがなかった。

注

(1) 澹生堂の蔵書については、寺田隆信氏「紹興祁氏の『澹生堂』について」(『東方学会創立四十周年記念東方学論集』、一九八七)に詳しい。

(2) 鄭振鐸「跋脈望館鈔校本古今雑劇」(『西諦書話』、一九八三、生活・読書・新知三聯書店、四二三頁)。また『鄭振鐸古典文学論文集』(一九八四、上海古籍出版社)にも収む。尚、この文章の末尾には「民国二十九年十月十七日写畢」との署名がある。

(3) 『遠山堂明曲品劇品校録』、一九五五、上海出版公司。ちなみに黄裳氏によって祁彪佳の『遠山堂曲品』が初めて紹介されたのは、「跋祁彪佳『曲品』残稿——明人戯曲存目的新発現——」(『西廂記与白蛇伝』、一九五三、平明出版社)においてである。

(4) 「曲目鉤沈録」、『戯曲小説叢考』巻上、一九七九、中華書局、所収。

(5) 青木正児氏『支那近世戯曲史』第七章、一四三頁(『青木正児全集』第三巻、一九七七、春秋社)。

—平成四年九月二十一日　受理—